長岡市埋蔵文化財調査報告書

浦畑遺跡Ⅲ

―墓園拡張工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2016

新潟県長岡市教育委員会

例　　言

1．本書は新潟県長岡市来迎寺字浦畑 901 番地２ほかで実施した浦畑遺跡第３次発掘調査報告書である。

2．調査の原因は長岡市越路墓園区画増設工事であり、調査主体は長岡市教育委員会である。

3．発掘調査に要した経費は原因者である長岡市が負担した。

4．遺物の註記は以下のとおりである。

　遺構覆土出土資料　　遺跡略号（UH）＋調査年度（15）＋遺構番号　－個別番号

　調査区内出土資料　　遺跡略号（UH）＋調査年度（15）＋層名

5．遺構番号は遺構略号＋通し番号とした。そして過去に実施した発掘調査との混同を避けるため、301 番～とした。

6．遺構平面図及び断面図は簡易遣り方実測（1：10）で作成した。

7．本書の執筆・編集は調査担当が行った。

8．本文における遺構形態の表記は加藤［1999］に準拠した。

9．本文･図版において､土壌の色調は日本色研事業株式会社発行『新版　標準土色帖』に準拠して記載した。また、粘性と締りについては５段階で表記した。１が最も弱く、５が最も強い。

9．本報告書の内容は先行する全ての報告・記載に優先する。

10. 調査の体制は以下のとおりである。

調　査　主　体	長岡市教育委員会（教育長　加藤孝博）
事　　務　　局	長岡市教育委員会科学博物館（館長　小熊博史）
調　査　担　当	長岡市教育委員会科学博物館　主査　新田康則
調 査 補 助 員	石坂圭介（株式会社シン技術コンサル）
土木作業管理者	杉本和夫（株式会社シン技術コンサル）
発 掘 作 業 員	青柳政則・内山良子・加藤一善・郷　武治・小林　茂・小林春治・佐藤尚雄・田中康夫・濁川俊明・深井恒博・渡辺雪子
整 理 作 業 員	小川真紀・渡辺雪子

11. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々より多大なる御教示・御協力を賜った。記して厚く御礼申し上げる。（五十音順・敬称略）

安藤正美・田中洋史・三ツ井朋子・有限会社越路地計・株式会社信濃技術・株式会社長測・永井工業株式会社・社団法人長岡シルバー人材センター越路支部・新潟県教育庁文化行政課・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・長岡市立中央図書館文書資料室

目　　次

第Ⅰ章　調査に至る経緯…… 1
第Ⅱ章　遺跡をとりまく環境…… 2
　1　遺跡の位置
　2　周辺の遺跡
第Ⅲ章　調査の方法と経過…… 4
第Ⅳ章　調査の成果…… 6
　1　調査の概要
　2　調査区の堆積状況
　3　遺構と遺物
第Ⅴ章　まとめ…… 20

参考文献

挿図・表目次

第１図　調査区位置図（1:4,000）　1
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡　3
第３図　調査区配置図　5
第４図　中世期の遺構分布　21

第１表　全体工程表　4
第２表　遺構観察表　14
第３表　陶磁器観察表　19
第４表　石器観察表　19
第５表　金属製品観察表　19

図版目次

図版１　遺構全体図①
図版２　遺構全体図②
図版３　個別遺構図①
図版４　個別遺構図②
図版５　個別遺構図③
図版６　個別遺構図④
図版７　個別遺構図⑤
図版８　個別遺構図⑥
図版９　個別遺構図⑦
図版 10　個別遺構図⑧
図版 11　遺物実測図

写真図版１　調査写真①
写真図版２　調査写真②
写真図版３　調査写真③
写真図版４　調査写真④
写真図版５　調査写真⑤
写真図版６　調査写真⑥
写真図版７　調査写真⑦
写真図版８　遺物写真

第Ⅰ章　調査に至る経緯

平成 26 年 10 月、長岡市越路支所市民生活課（以下、支所市民生活課）から長岡市教育委員会科学博物館（以下、科学博物館）に対し、長岡市来迎寺地内、浦畑遺跡における長岡市越路墓園拡張工事に係る埋蔵文化財の取扱いについて協議の申し入れがあった。

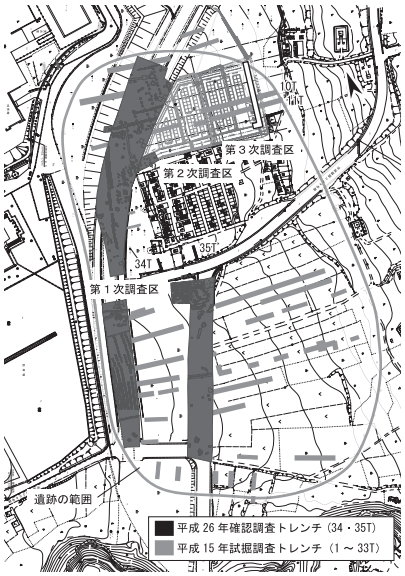
工事は、既存の墓地区画と同様、遺跡保護のため現況盛土で造成するが、用地東端に土留用の擁壁を設置するため、この部分に掘削が伴うというものであった。これに対し科学博物館は、平成 15 年に越路町教育委員会が実施した試掘調査の結果と照らして、本発掘調査の要否を判断することとした。

試掘調査は、浦畑地区における道路改良及び緑地整備に伴うもので、その結果、平成 19 年に 4,100㎡を対象とした本発掘調査（以下、第１次調査）を実施した。掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構・井戸状遺構等と併せ、珠洲焼・和鏡・刀子などの遺物が出土し、13 世紀から 15 世紀に営まれた在地勢力の葬送の場、あるいは墓域の存在を確認した［長岡市教委　2008］。その後、平成 22 年には、長岡市越路墓園建設工事に伴い、第１次調査Ａ地区に連接する 54.6㎡を対象とした本発掘調査（以下、第２次調査）を実施した。ここでは第１次調査で検出した掘立柱建物や土坑と連続する遺構群を確認している［長岡市教委　2011］。

今回の事業地は、平成 15 年実施の試掘調査のうち、10・11 Ｔにおける遺構・遺物検出状況が参照される。10・11 Ｔでは、掘立柱建物を構成すると推測される柱穴・土坑・溝などの遺構プランを検出し、加えて 11 Ｔでは、柱穴プランに伴って、縄文土器片と珠洲焼片が出土している［長岡市教委　2008］。墓地区画を現況盛土で造成して遺跡を保護するには土留用の擁壁設置は不可欠であり、工法上、この部分の地山の掘削が避けられないため、本発掘調査を実施し、記録として遺跡を保存する方針を固めた。

一方、墓地区画拡張工事とは計画別に、駐車場整備計画が具体化したため、10 月 29 日に遺跡範囲確認調査を実施した（34・35 Ｔ）。ここでは掘立柱建物跡を構成すると推測される柱穴・土坑・溝のプランが比較的密に分布する状況を確認した［長岡市教委　2015］。遺物包含層がほぼ消滅しており、帰属時期の特定には至らなかったが、第１次調査Ｃ地区東端（Ｅ～Ｇ－ 12 ～ 13 グリッド：第３図参照）で確認した中世の遺構群と一連をなすものと推測された。そして、この範囲が中世期における遺構分布の中心であり、今回の本発掘調査（以下、第３次調査）対象範囲は、その縁辺部に該当して遺構密度も低い、という遺跡全体像によって調査計画を立て、本発掘調査の準備を進めた。

平成 27 年度予算の成立を受けて、支所市民生活課から平成 27 年４月１日付け越市第 10 号２で発掘調査の依頼があり、続いて４月８日付け越市第 11 号で法第 94 条第１項の規定による埋蔵文化財発掘の通知があった。長岡市教育委員会は４月 22 日付け長教博第 46 号による意見を添えて、新潟県教育委員会教育長に送付した。これに対し５月 18 日付け教文第 146 号により、長岡市に対して工事着手前に本発掘調査を実施するよう通知があった。5 月 25 日付け長教博第 75 号で新潟県教育委員会教育長に対して法第 99 条第１項の規定による発掘調査着手を報告し、本発掘調査を開始した。



第１図　調査区位置図（1：4,000）

第Ⅱ章　遺跡をとりまく環境

1　遺跡の位置（第２図）

浦畑遺跡は新潟県長岡市来迎寺地内に所在する。大字来迎寺を含む旧三島郡越路町（現在の長岡市越路地域）は、新潟平野の南端部に位置しているが、越路原という大きな地理的障壁によって、信濃川流域とその支流渋海川流域、二つの地域へと隔てられている。

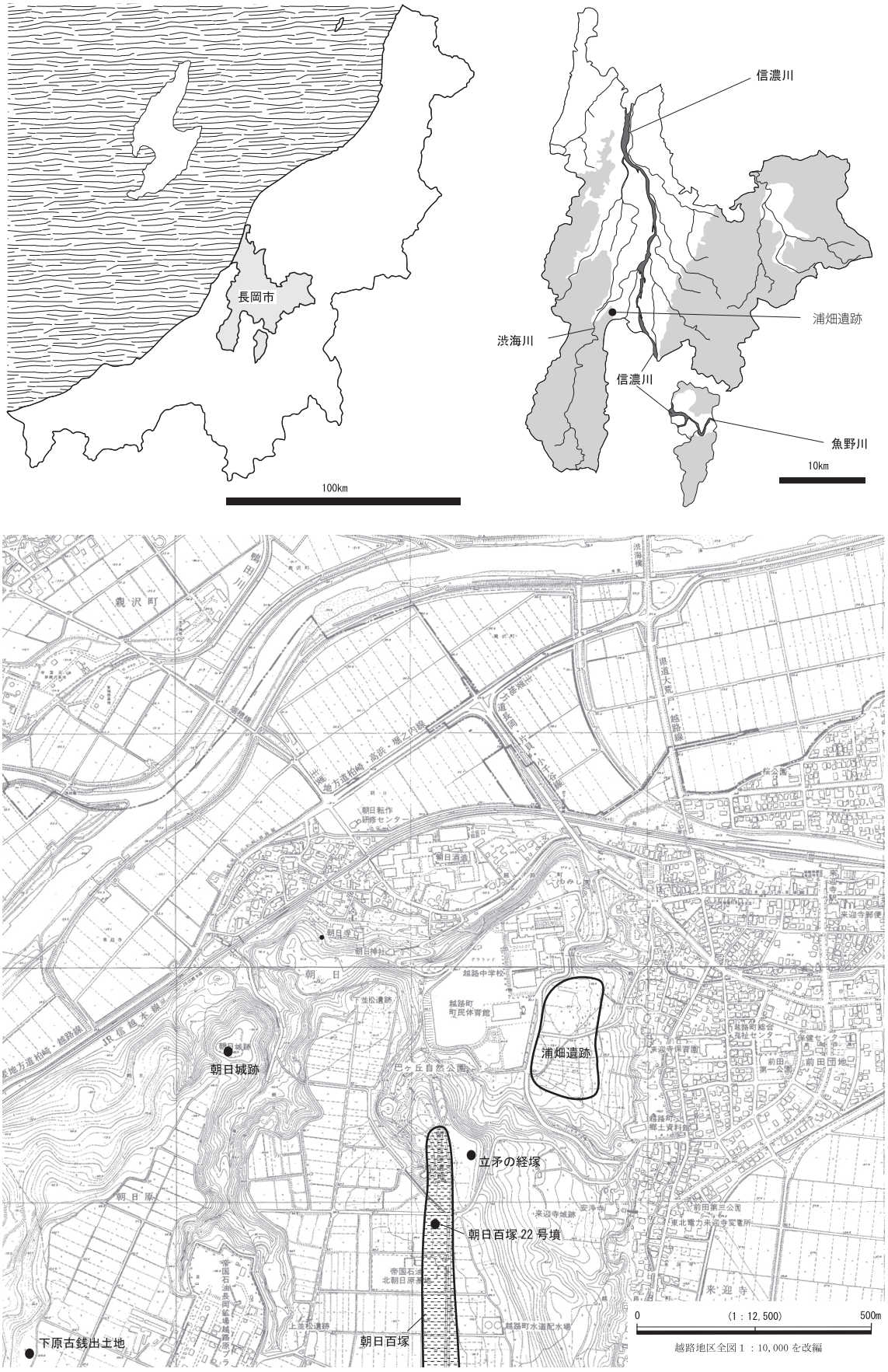
越路原は、信濃川左岸に形成された６面の河岸段丘のうち、越路原Ⅰ面・越路原Ⅱ面・越路原Ⅲ面を総称する呼称である。越路原Ⅱ面については、渡辺秀男が信濃川ローム層中の広域テフラを基準とした段丘面対比を進め、隣接する小粟田原面などと同一段丘面であるとして、あらたに「片貝面」という名称を提唱している。加えて形成年代についても、越路原Ⅰ面は 13 ～ 15 万年、越路原Ⅱ面＝「片貝面」は 10 万年前頃、越路原Ⅲ面を 5.5 万年前頃としている［渡辺　2007］。段丘形成時には信濃川に向かって緩やかに傾斜する地形面であったと推測されているが［柳　1998］、ここを走る片貝－真人背斜（隆起）と小千谷向斜（沈降）は、10 万年間の変動量が 80 ｍに達する国内屈指の褶曲運動をみせており、その結果、舌状に独立した台地として新潟平野に迫り出す形となっている。

遺跡は越路原Ⅲ面の北東端に立地し、標高は第３次調査区付近で約 54 ｍ。信濃川の比高差は約 28 ｍである。周辺は東に向かって緩やかに下る傾斜地となっており、長らく畑地として利用されていたが、平成 19 年の第１次調査を経て市道越路 445 号線と公園が整備され、平成 22 年には第２次調査を経て墓園が建設されるなど、景観の変化が著しい。

2　周辺の遺跡（第２図）

浦畑遺跡周辺には、幾つかの中世遺跡の所在が知られている。越路原Ⅰ面の西縁に所在する下原古銭出土地からは珠洲焼の壺に収納された 1,311 枚の備蓄銭が出土している。出土銭や珠洲焼の年代から 14 世紀半ば以降から 15 世紀前半に埋納されたものと考えられている［遠藤　1998］。越路原Ⅰ面北西端には朝日城跡が立地する。江戸時代後期に編まれた『北越城主抜書』（元明２年頃）や『越後野志』（文化 12 年）は七寸五分氏を城主と伝えており、簡略的な縄張りをもつ中世の在地領主の館城と推測されている［鳴海　1998］。しかし、平成 16・17 年に実施し試掘・確認調査でも郭の造作は確認できず、不明な点が多い。

朝日百塚は、中世に構築されたと考えられる塚群であり、『越後名寄』（宝暦６）を始めとする地誌類に記載されるほか、草間文績の文政元年『越後輿地図』にも「長者ヶ原塚多有　百塚原トモ云」との記事が見える。昭和 23 年の「朝日百塚測図」には 148 基の所在が記録されており、南北方向約１キロメートルにわたり直線的に並ぶ小形の塚群とその東に点在する大形の塚群とがあったが、昭和 42 年の越路原総合開発事業により大部分が失われている。９基について発掘調査が行われ、唯一 22 号塚から 13 世紀後半～ 14 世紀代に比定される珠洲焼の壺が出土している［遠藤　1998］。また、現存する 16 基のうちの１基は、朝日百塚とは別に、立矛の経塚として周知化されている。ここから出土したという来迎弥陀三尊図・紺紙金泥経・蓬莢鏡が紫雲山安浄寺に伝わっており、最も新しい蓬莢鏡の年代から、塚の構築年代は江戸時代前期と推定されている［遠藤　1998］。文政２年 12 月に朝日村の組親与次右衛門へと提出された文書（長岡市立中央図書館文書資料室所蔵三島郡朝日村松井家文書）によれば、「百塚辺」から経文を拾得した者がいるという風聞について五人組を通した尋問が行われており［田中　2009］、安浄寺資料との関係に興味が持たれる。



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第Ⅲ章　調査の方法と経過

1　調査の方法

第１次・第２次調査で使用した調査グリットを復元して調査に臨んだ。つまり、北西端を原点とした10ｍメッシュを設定し、原点から南へがアラビア数字の１～21、同様に、東へはアルファベットのＡ～Ｋを振り当てた（第３図）。

表土層は0.25㎥級バックホウによるすき剥ぎで掘削し、それより下位の土層及び遺構覆土はジョレンや移植ゴテ、ネジリガマなどを用いた人力掘削で調査を進めた。

検出した遺物は、光波測量で出土位置を記録した。ただし、表土層出土の遺物は、調査区もしくは大グリッド一括で取り上げた。

遺構全体平面図は、調査の最終工程で実施した航空写真測量（１：40）を基に、一部を光波測量で補足して作成した。また、切り合いなどの関係で航空写真測量前に失われる遺構の平面図は簡易やり方実測（１：10）で記録した。また、遺構断面図も簡易やり方実測（１：10）で記録した。

調査写真にはキヤノンEOS－KissＸ２（レンズ18－55㎜）とキャノンEOS－Kiss Ⅲ（レンズ28－80㎜）を併用し、それぞれJPEG形式と35㎜白黒フィルムで記録した。

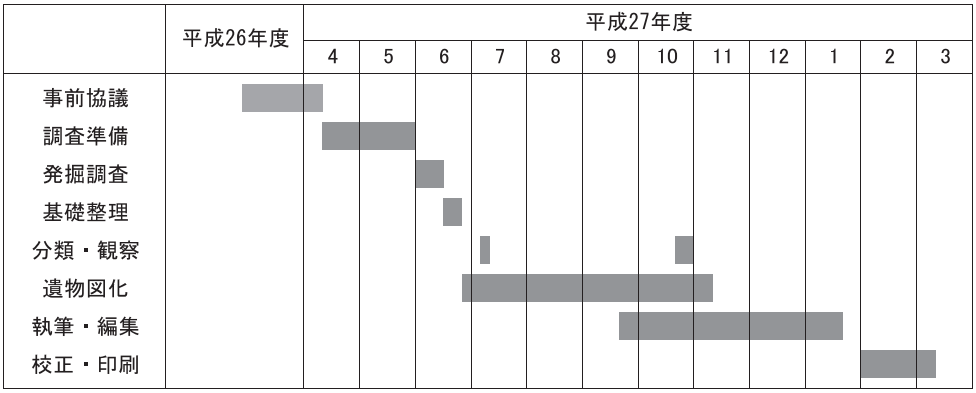
2　調査の経過

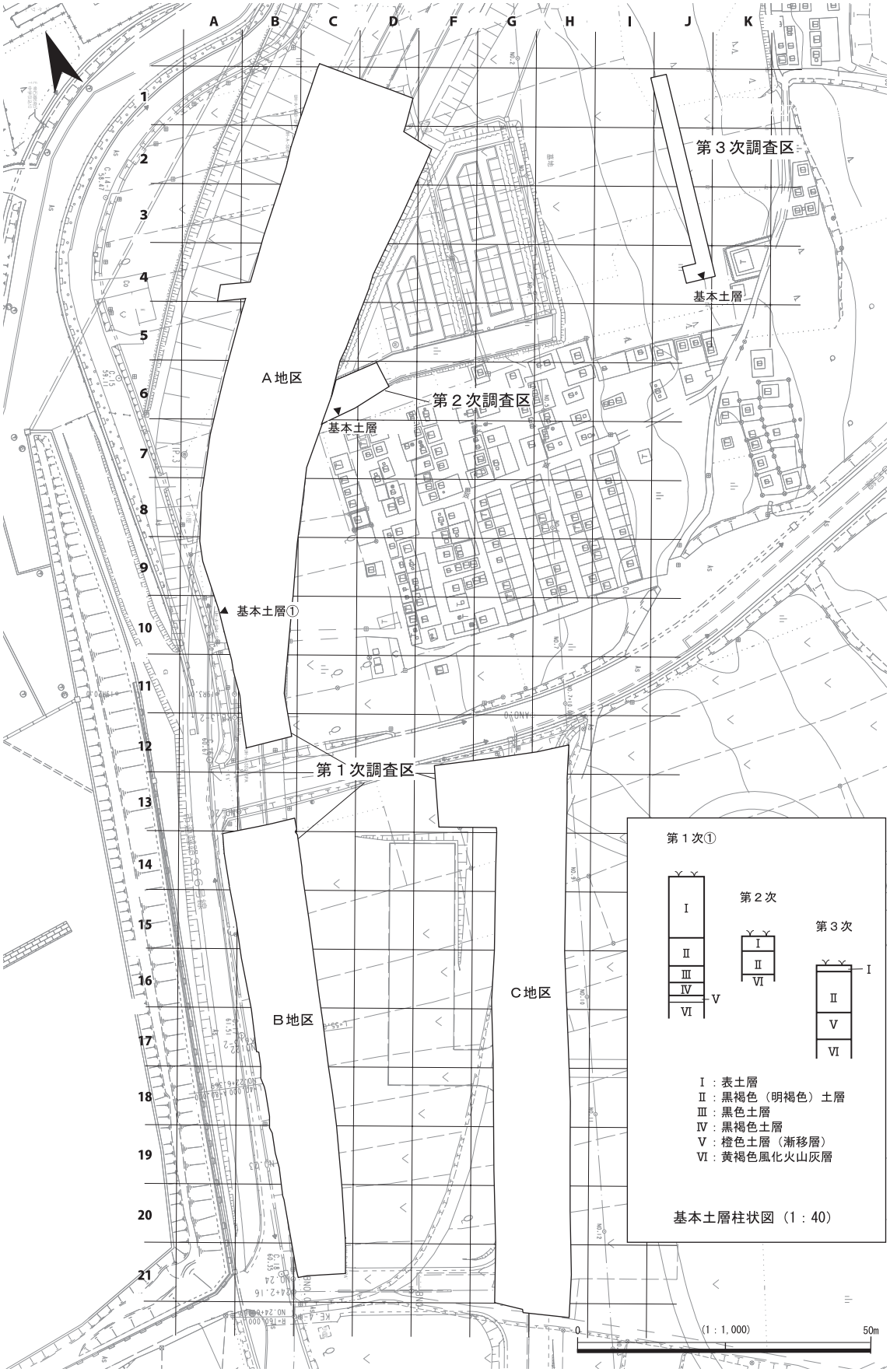
発掘調査の経過　平成27年６月１日、バックホウによるすき剥ぎにて表土（Ⅰ層）を除去した。その後、グリッド杭を打設した。翌２日、作業員を加えた作業を開始。黄褐色風化火山灰土層（Ⅵ層）上面で調査区全体の遺構確認を行い、100基を超える遺構を確認した。３日より遺構調査を開始し、11日に完掘。調査区全体の精査を行って、航空写真測量を実施した。12日、図面記録及び写真測量の補足作業を行い、調査を完了した。調査区の埋め戻しは行わず、標識ロープで養生した上で、現場の引き渡しを行った。

整理作業の経過　整理作業は６月16日より実施した。出土遺物は、水洗い、註記した後、分類･抽出し、図化・写真撮影を行った（11月４日終了）。遺構はまず全体図（１：40）を作成し（8月10日完成）、これを基に個別図を作図した（11月11日終了）。原稿の執筆は９月20日より断続的に行い、編集作業は11月12日より開始した。明けて平成28年１月21日に全ての原稿を整え、印刷所に入稿した。

出土遺物・記録写真・記録図などは全て長岡市教育委員会埋蔵文化財整理作業所に保管している。

第１表　全体工程表




A
B
C
D
F
G
H
I
J
K
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
第３次調査区
基本土層
Ａ地区
第２次調査区
基本土層
基本土層①
第１次調査区
Ｂ地区
Ｃ地区
第１次①
第２次
第３次
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ
Ⅵ
Ⅰ：表土層
Ⅱ：黒褐色（明褐色）土層
Ⅲ：黒色土層
Ⅳ：黒褐色土層
Ⅴ：橙色土層（漸移層）
Ⅵ：黄褐色風化火山灰層
基本土層柱状図（1：40）
0
(1：1,000)
50m

第３図　調査区配置図

第Ⅳ章　調査の成果

１　調査の概要

今回の第３次調査によって遺構 121 基と遺物 31 点を検出した。検出遺構は土坑 11 基・ピット 90 基・溝状遺構 20 条に分類される。いずれも調査区南側でやや密集して発見され、北側で若干疎となる。特に、方形の土坑（ＳＫ 312・ＳＫ 317・ＳＫ 345・ＳＫ 395 等）はこの傾向が顕著である。また、ピットの多くは柱穴と思われるが、調査区の制約もあり、建物跡の復元には至らなかった。

出土遺物は陶磁器 13 点・縄文土器３点・石器 14 点・金属製品１点である。出土陶磁器は、珠洲焼 12 点・青磁１点に分類される。一方、石器は、磨石類８点･台石３点･砥石１点･剥片２点である。出土遺物のうち、表土出土２点（台石と磨石）とＩ３グリッド出土３点（縄文土器砕片）を除いた 26 点は、遺構覆土中から出土している。

２　調査区の堆積状況（第３図）

試掘・確認調査を含む過去の発掘調査のうち、最も良好な堆積状況を示しているのは、第１次発掘調査の基本層序①［長岡市教委　2008］である。この地点ではＩ層＝表土層（耕土層）、Ⅱ～Ⅳ層＝黒ボク土層、Ⅴ層＝漸移層、Ⅵ層＝黄褐色風化火山灰土層という層序を把握できた。しかし、遺跡範囲の大部分において、近年まで行われていた畑作の影響等により、黒ボク土層が失われている。

今回の調査区で最も良好な堆積状況を示していたのは、調査区南壁であった。ここでは表土層＝Ⅰ層、灰黄褐色土層、黄橙色土層、黄褐色風化火山灰土層＝Ⅵ層の堆積を確認した。灰黄褐色土層は、第１次調査Ⅱ´層や第２次調査Ⅱ層に類似することから、これをⅡ層と認定し、黄橙色土層は、同様にⅤ層＝漸移層とした。しかし、調査区の大部分においてⅡ層･Ⅴ層は認められず、Ⅰ層直下にⅥ層が露出する状況であった。このためⅥ層上面を遺構確認面とした。

３　遺構と遺物（第２～５表　図版３～ 11）

（１）土坑（図版３～５・11　写真図版４～８）

ＳＫ 301（図版３・11）　調査区南端Ｊ４グリッドに所在する。平面形は概ね方形を呈するものと思われるが、西側と南側が調査区外へと続いており、全体の規模・形状は不明である。断面形は台形状を呈し、底面は平坦である。確認された範囲では、南北 233㎝、東西 223㎝、確認面から底面までの深さは 63㎝である。今回の調査においては突出した規模をもつ大形土坑である。覆土は３枚観察され、いずれも自然堆積したものと推測される。ＳＫ 302 に切られ、ＳＫ 399 を切る。

本遺構からは珠洲焼６点と金属製品１点が出土した。４は出土位置が不明であるが、他は遺構西側の①層及び②層から出土している。７点全点を図化した。１～６は珠洲焼である。１～４は甕の体部片で、同一個体の可能性がある。平行式打圧痕が見られ、叩き目３㎝当たりの打圧密度は８目から９目である。吉岡編年［1994］Ⅳ期に位置づけられよう。５・６は片口鉢片で、５は底部、６は口縁部資料である。６の口縁部端部がやや外側に突出し、体部はやや膨らむ。吉岡編年Ⅳ期と考えられる。７は金属製品であるが器種等不明。長さ 3.9㎝・幅 0.8㎝・厚さ 0.3㎝を測り、平面形態は柳葉形で、端部は丸みを帯びる。中央付近に直径４㎜程の孔が２つ穿たれている。

ＳＫ 305（図版３・11）　Ｊ４グリッドに所在する。ＳＫ 306 を切る。平面形は楕円形、断面形は弓状を呈する。一部は調査区外となる。確認した範囲での長径は 69㎝、短径は 30㎝で、確認面から底面までの深さは 18㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 306（図版３・11）Ｊ４グリッドに所在する。ＳＫ 305 に切られる。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。北側は調査区外となる。確認した範囲での長径は 128㎝、短径は 49㎝で、確認面から底面までの深さは 24㎝である。

本遺構からは珠洲焼片と台石各１点が底面付近で出土した。珠洲焼片は台石の直下から出土している。珠洲焼片１点を図化した。８は甕の体部資料である。叩き目の打圧密度は３㎝あたり８目である。吉岡編年Ｖ期と推定される。

ＳＫ 312(図版４）　Ｊ３・４グリッドにまたがって所在する。平面形態は方形で、東西辺 130㎝、南北辺 122㎝。断面形は概ね箱状で、確認面から底面までの深さは 50㎝である。土層断面の観察等から、ＳＤ 303 とＳＤ 304 に切られていることがわかる。遺物は出土していない。

ＳＫ 317（図版４）　Ｊ３グリッドに所在する。東側の一部が調査区外に続いている。確認した範囲での平面形は長方形で、長辺 177㎝、短辺 133㎝。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 29㎝である。ＳＤ 320 を切り、ＳＫ 404 に切られる。

本遺構からは、珠洲焼片２点、磨石類３点が出土した。珠洲焼２点を図化した。９は甕の体部片で、叩き目の３㎝あたりの打圧密度は９目。小破片のため判然としないが、吉岡編年Ｖ期と考えられる。10 は甕の底部資料で、吉岡編年Ｖ期以降の所産と考えられる。

ＳＫ 319（図版５）　Ｊ３グリッドに所在する。西側の一部が調査区外に続いている。ＳＫ 370・ＳＫ 398・ＳＫ 403 に切られる。確認した範囲の平面形は不整方形で、南北辺は 74㎝、東西辺は 88㎝。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 10㎝。本遺構からは磨石類１点が出土したが、図化はしていない。

ＳＫ 330（図版５）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 331・ＳＫ 333 を切り、ＳＫ 329 に切られる。平面形は隅丸方形を呈し、長辺 91㎝、短辺は 73㎝。断面形は弓状を呈し、確認面から底面までの深さは 11㎝である。遺物は出土しなかった。

ＳＫ 345（図版５）　Ｊ２グリッドに所在する。東側の一部は調査区外に続いている。ＳＫ 395 を切る。確認した範囲での平面形は方形で、南北辺は 185㎝、東西辺は 141㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さが 31㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 355（図版６）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 358 を切り、ＳＫ 359 に切られる。平面形は円形で、長径は 71㎝、短径は 63㎝。断面形は不整な台形状で、確認面から底面までの深さは 13㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 369（図版６）　Ｊ２グリッドに所在する。東側の一部は調査区外に続いている。確認した範囲での平面形は不整形で、長軸 78㎝、短軸 85㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 29㎝である。底面は凹凸が著しい。遺物は出土していない。

ＳＫ 395（図版５）　Ｊ３グリッドに所在する。東側の一部は調査区外に続いている。ＳＫ 345 に切られる。確認した範囲での平面形は方形で、南北辺 130㎝、東西辺 102㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 19㎝である。遺物は出土しなかった。

（２）ピット（図版３～11）

ＳＫ 302(図版３)　Ｊ４グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径 101㎝、短径 72㎝。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 45㎝である。覆土のうち③層（明黄褐色粘質土）は、Ⅵ層に由来するものであり、ＳＫ 301 が廃絶・埋没した後、本遺構が構築される際、柱の根固めを目的として埋められたものと推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 303（図版３）　Ｊ４グリッドに所在する。南側は調査区外に続いている。平面形は方形を呈すると推測される。確認した範囲での長径は 26㎝、短径は 10㎝である。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 28㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 304（図版３）　Ｊ４グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 29㎝、短径 28㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 22㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 308（図版６）　Ｊ４グリッドに所在する。平面形は方形で、長辺 34㎝、短辺 30㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 56㎝である。遺構形状や覆土の堆積状態は、柱穴の典型的な在り方を示している。遺物は出土していない。

ＳＫ 309（図版６）　Ｊ４グリッドに所在する。ＳＫ 310 に切られるが、方形の平面をもつ遺構であったと推測される。長径 27㎝、短径は残存値で 20㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは４㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 310（図版６）　Ｊ４グリッドに所在する。ＳＫ 309 を切る。平面形は長方形で、長辺 50㎝、短辺 34㎝。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 66㎝である。遺構形状等から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 311（図版６）　Ｊ４グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径 34㎝、短径 29㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 25㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 313（図版６）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 314 を切る。平面形は楕円形で、長径 47㎝、短径 38㎝である。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 43㎝である。遺構形状や覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 314（図版６）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 313 に切られているが、平面形は楕円形であったと推測される。長径は残存値で 28㎝、短径は 24㎝である。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは５㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 316（図版４）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＤ 320 を切る。平面形は楕円形で、長径 28㎝、短径 24㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 16㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 318（図版６）　Ｊ３グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 38㎝、短径 34㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 40㎝である。遺構形状や覆土の堆積状況は、柱穴の典型的な在り方を示している。遺物は出土していない。

ＳＫ 320（図版６）　Ｊ３グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 32㎝、短径 30㎝。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 36㎝である。遺構形状や覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 321（図版６）　Ｊ３グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径 24㎝、短径 20㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 36㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 322（図版６）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 323 を切る。平面形は円形で、長径 43㎝、短径 39㎝。

断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは68cmである。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 323（図版６）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 322 に切られる。平面形は円形で、長径 31cm、短径は残存値で 28cm。断面U字状で、確認面から底面までの深さは 21cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 324（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 325 に切られるが、楕円形の平面形をもつ遺構と推測される。長径は残存値で 51cm、短径は残存値で 32cm。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは７cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 325（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 324 を切り、ＳＫ 326 に切られる。平面形は円形で、長径 35cm、短径 30cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは 36cmである。遺構形状や覆土の堆積状況は、柱穴の典型的な在り方を示している。遺物は出土していない。

ＳＫ 326（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 325 を切り、西側が調査区外に続いている。方形の平面形をもつ遺構と推測される。確認した範囲での長径は 45cm、短径は残存値で 25cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 52cmである。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 327（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。東側がわずかに調査区外へと続いているが、円形の平明をもつ遺構である。長径 31cm、短径は残存値で 29cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 17cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 328（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。平面形は楕円形を呈し、長径 39cm、短径 32cmである。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 40cmである。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 329（図版５）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 330 を切る。平面形は円形で、長径 36cm、短径 33cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは 31cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 331（図版５）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 332 を切り、ＳＫ 330 に切られる。楕円形の平面をもつ遺構と推測される。長径 34cm、短径は残存値で 20cm。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは８cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 332（図版５）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 331 に切られる。西側が調査区外に続いている。円形の平面をもつ遺構と推測される。確認した範囲での長径は 64cm、短径は残存値で 51cmである。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 26cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 333(図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 330 に切られる。平面形は略円形で、長径 42cm、短径 41cm。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 26cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 334（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 335 を切る。平面形は略円形で、長径 48cm、短径 42cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 30cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 336（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径 50cm、短径 31cm。断面形は階段状を呈し、確認面から底面までの深さは 26cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 337(図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＤ 306 に切られる。平面形は楕円形で、長径 36cm、短径 33cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは 35cmである。遺構形状や覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。遺物は出土していない。

ＳＫ 338（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＤ 306 に切られる。平面形は楕円形で、長径は 42cm、短径は 36cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 32cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 339（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 340 に切られる。平面形は不整形で、確認できる範囲での長径は 64㎝、短径は 21㎝である。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは９㎝である。ＳＫ 340 に関連する遺構か。遺物は出土していない。

ＳＫ 340（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 339 を切る。平面形は円形で、長径 43㎝、短径 42㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 50㎝である。遺構形状及び覆土の堆積状況から、柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 342（図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径 42㎝、短径 36㎝。断面形は半円状で、確認面から底面までの深さは 15㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 344(図版７）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＤ 307 に切られる。平面形は楕円形で、長径 51㎝、短径 34㎝。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 54㎝である。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 346(図版８）　Ｊ２グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径 36㎝、短径 34㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 41㎝であった。西側にテラス状の段をもつ。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 347（図版８）　Ｊ２～３グリッドにかけて所在する。平面形は円形で、長径 38㎝、短径 34㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 36㎝であった。遺構形状や覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。遺物は出土していない。

ＳＫ 348（図版８）　Ｊ３グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 30㎝、短径 26㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 20㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 349（図版８）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＤ 319 を切る。遺構西半が調査区外に続いている。確認できる範囲の平面形は楕円形で、長径 50㎝、短径 25㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 53㎝である。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 350（図版８・11）　Ｊ２グリッドに所在する。平面形態は円形で、長径 43㎝、短径 42㎝。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 51㎝。遺構形状や覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。

本遺構からは砥石１点が出土している。これを図化した。11 は安山岩製の砥石で、細長い立方体状をなす。磨き作業を受け４側面とも平滑になっており、特に裏面は著しい。基部は折れ、先端部にも左右に欠損が見られる。

ＳＫ 356（図版８）　Ｊ３グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 23㎝、短径 22㎝。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 16㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 357(図版８）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 362 に切られる。平面形は楕円形で、長径 31㎝、短径 26㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 40㎝である。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 360（図版８）　Ｊ２グリッドに所在する。東側が調査区外に続いている。確認できた範囲の平面形は楕円形で、長径 27㎝、短径 23㎝。断面形態はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 55㎝である。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 370(図版５）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 319 に切られる。平面形は楕円形で、長径 41㎝、短径 33㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 19㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 373（図版８）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 374 を切る。平面形は円形で、長径 31㎝、短径 30㎝。

断面形はＶ字状で、確認面から底面までの深さは 12㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 374（図版８）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 375 を切り、ＳＫ 373 に切られる。平面形は不整楕円形で、長径は残存値で 47㎝、短径は 42㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 15㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 375（図版８）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 376 を切り、ＳＫ 374・ＳＤ 313 に切られる。平面形は楕円形で、長径は残存値で 39㎝、短径 38㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 32㎝である。遺構覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 377（図版８）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 376 に切られるが、楕円形の平面をもつ遺構と推測される。長径は残存値で 69㎝、短径は 38㎝。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは 21㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 378（図版９）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＤ 315 を切る。平面形は不整円形で、長径 48㎝、短径 42㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 24㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 380（図版９）　Ｊ２グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径 42㎝、短径 28㎝。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 50㎝である。遺構形状及び覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。遺物は出土していない。

ＳＫ 381（図版９）　Ｊ２グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 35㎝、短径 32㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 26㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 382（図版９）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 383 を切る。平面形は円形で、長径 25㎝、短径 22㎝。断面形はＶ字状で、確認面から底面までの深さは 11㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 383（図版９）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 384 を切り、ＳＫ 382 に切られる。平面形は楕円形で、長径 47㎝、短径は残存値で 30㎝であった。断面形はＶ字状で、確認面から底面までの深さは 16㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 384（図版９）　Ｊ１・２グリッドに所在する。ＳＫ 383 に切られる。確認できる範囲での平面形は楕円形で、長径は 41㎝、短径は 32㎝。断面形はＶ字状で、確認面から底面までの深さは 21㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 385（図版９）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 397 を切る。平面形は方形で、長辺 51㎝、短辺 42㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 18㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 387（図版９）　Ｊ１グリッドに所在する。平面形は方形で、長辺 26㎝、短辺 25㎝。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 20㎝である。小規模ながら、遺構形状及び覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示している。遺物は出土していない。

ＳＫ 388（図版９）　Ｊ１グリッドに所在する。ＳＤ 316 を切る。平面形は楕円形で、長径 78㎝、短径 40㎝。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 21㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 390（図版 10）　Ｊ１グリッドに所在する。ＳＤ 317 に切られる。平面形は不整楕円形で、長径 62㎝、短径は残存値で 40㎝。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 35㎝であった。遺構形状及び覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 391（図版 10）　Ｊ１グリッドに所在する。ＳＤ 317 に切られる。確認できた範囲の平面形は楕円形で、長径は 63㎝、短径は 53㎝。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 24㎝である。遺物は出土していない。

ＳＫ 394（図版 10）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＤ 306 とＳＤ 307 とが交差する地点に位置し、これら遺構に切られる。平面形は円形で、長径・短径ともに 33cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 38cmである。遺構形状及び覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。遺物は出土していない。

ＳＫ 396（図版４）　Ｊ４グリッドに所在する。ＳＤ 305 の底面で確認・検出した遺構で、西側が調査区外となる。略円形の平面をもつと推測され、確認した範囲での長径は 28cm、短径 25cm。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 21cmである。

本遺構からは磨石類が１点出土しているが、図化はしていない。

ＳＫ 397（図版９）　Ｊ１・Ｊ２グリッドにまたがって所在する。ＳＫ 385 に切られる。確認できた範囲の平面形は不整形で、長径は 47cm、短径は 40cm。断面形はＶ字状で、確認面から底面までの深さは 14cmである。遺物は出土していない。

ＳＫ 398（図版５）　Ｊ３グリッドに所在する。ＳＫ 319 を切る。西側が調査区外となる。楕円形の幣文をもつと推測され、確認した範囲での長径は 23cm、短径は 14cm。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 50cmである。遺構形状及び覆土の堆積状況は、典型的な柱穴の在り方を示している。遺物は出土していない。

ＳＫ 399（図版３）　Ｊ４グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 33cm、短径 30cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 20cmである。遺構形状及び覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

ＳＫ 404（図版４）　Ｊ３グリットに所在する。ＳＫ 317 の東西断面で確認・検出した遺構であり、断面観察からは、ＳＫ 317 埋没後、これを掘り込んでいると判断できる。円形の平面をもつと推測され、径 25cm。断面形はＵ字状で、確認面から底面までの深さは 26cmである。遺物は出土していない。自然礫が２点出土しており、柱穴の根固石として利用された可能性がある。

（３）溝状遺構（図版４・７～ 11）

ＳＤ 301（図版４・11）　Ｊ４グリッドに所在する。東西方向に軸をもち、東が調査区外に続いている。最大幅 40cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 4cmである。

本遺構からは、台石と磨石が各１点ずつ出土した。このうち台石１点を図化した。12 は①層上から出土した安山岩製の台石である。長さ 20.5cm、幅 23.1cm、厚さ 7.3cm、重さ 5097.5ｇを測る。右辺一部と下辺は欠損する。横断面の上面はほぼ平らだが、下面は椀状をなす。表面中央付近に敲打痕が認められる。表面側には黒化している。一方、裏面は赤化しており、底面付近はスリ痕が顕著である。帰属時期は判然としない。付近で鍛冶を示す痕跡は検出されていないものの、中世の鍛冶関連遺物の可能性がある。

ＳＤ 302（図版４・11）　Ｊ４グリッドに所在する。東西方向に軸をもち、周辺のＳＤ 301・303・304 と平行する。西側でＳＤ 305 に切られる。東西両側でやや広く、中央で狭い。最大幅 72cm。確認面から底面までの深さは８cmである。

遺物は１点出土し、これを図化した。13 は珠洲焼の甕片で、遺構底面から出土した。小破片のため詳細は不明であるが、吉岡編年Ｖ期に位置づけられると判断される。

ＳＤ 303（図版４）　Ｊ３グリッドに所在する。東西方向に軸をもち、ＳＤ 304 ほか周辺の溝状遺構と平行する。最大幅 29cm。確認面から底面までの深さは８cmである。ＳＤ 304 と同様にＳＫ 312 を切ると推測されるが、ＳＫ 312 の南北セクションでは観察できなかった。したがって、このラインより東に遺構西端があっ

たものと考えられる。遺物は出土していない。

ＳＤ 304（図版４・11）　Ｊ３からＪ４グリッドにかけて所在する。ＳＫ 312 を切り、ＳＤ 305 に切られる東西方向に軸をもち、ＳＤ 303 ほか周辺の溝状遺構と平行する。最大幅 72㎝。確認面から底面までの深さは 30㎝である。

本遺構からは青磁１点、珠洲焼２点、合計３点出土した。全点を図化した。14 は青磁の碗片である。14 ～ 15 世紀代の隆泉窯の所産と考えられる。15 は珠洲焼甕の体部片。小破片のため詳細は不明であるが、吉岡編年Ｖ期に位置づけられよう。16 は珠洲焼片口鉢の口縁部資料。口縁部端部に櫛目波状文が施されている。体部は直線的な形状をなす。吉岡編年Ｖ期に位置づけられる。

ＳＤ 305（図版４）　Ｊ３からＪ４グリッドにかけて所在する。ＳＤ 302・304 とＳＫ 315・396 を切り、ＳＫ 317 に切られる。ＳＤ 304 などと平行して東西に伸びるが、調査区西端で曲がり南へ伸びている。全幅の判明している部分での最大幅は 56㎝。確認面から底面までの深さは 14㎝である。

本遺構からは磨石類が１点出土しているが、図化はしていない。

ＳＤ 306（図版２・７・10）　Ｊ３グリッドに所在する。東西方向に軸をもち、調査区を横断する。幅は 45㎝、確認面から底面までの深さは４㎝である。ＳＫ 337･338･394 を切り、Ｔ字状に交差するＳＤ 307 に切られる。遺物は出土していない。

ＳＤ 307（図版２・７・８・10）　Ｊ２からＪ３グリッドにかけて所在する。南北に軸をもち、幅 30㎝、確認面から底面までの深さは３㎝。ＳＫ 344・394・ＳＤ 306 を切る。ＳＤ 308・309 と連続する可能性もある。遺物は出土していない。

ＳＤ 311（図版２・８）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 362 を切る。確認された部分での最大幅は 27㎝、底面までの深さは 10㎝である。本遺構の北に位置するＳＤ 312 と同一遺構の可能性がある。

ＳＤ 313（図版２・８）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 375 を切る。調査区西壁に沿うようにして南北に伸びる。確認された範囲での幅は 28㎝、底面までの深さは 17㎝であった。

本遺構からは、頁岩製の剥片が１点出土したが、図化していない。

ＳＤ 315（図版２・９）　Ｊ２グリッドに所在する。ＳＫ 378 に切られる。南北に軸をもち、幅は 25㎝。確認面から底面までの深さは７㎝である。位置的には南のＳＤ 314 と連続する可能性も考えられるが、断面図からは各々別に掘り込まれた遺構と判断される。

本遺構からは、頁岩製の剥片が１点出土したが、図化していない。

ＳＤ 316（図版 10）　Ｊ１グリッドに所在する。ＳＫ 402 を切り、ＳＫ 388・ＳＤ 317 に切られる。ＳＤ 318 と同一遺構と考えられる。南北に軸をもち、最大幅は 52㎝。横断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 27㎝である。遺物は出土していない。

ＳＤ 317（図版 10）　Ｊ１グリッドに所在する。ＳＫ 390・391・400・401・ＳＤ 316・318 を切る。東西に軸をもち、最大幅 136㎝と広い。横断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 24㎝である。遺物は出土していない。

ＳＤ 318（図版 10）　Ｊ１グリッドに所在する。ＳＤ 317 に切られる。南北に軸をもち、最大幅 63㎝。横断面形はやや不整な台形状で、確認面から底面までの深さは 21㎝である。長軸方位、遺構形状等からＳＤ 316 と同一遺構と考えられる。遺物は出土していない。

第２表　遺構観察表（１）

〈　〉内は残存値を示す

図版No.	遺構名	グリッド	種別	平面形	断面形	長軸（m）	短軸（m）	深度（m）	覆土	長軸方位	遺物	他遺構との切り合い関係
3	SK301	Ｊ４	土坑	略方形	台形状	〈2.33〉	〈2.23〉	0.63	3		珠洲焼6・金属製品1	SK302に切られる/SK399を切る
3	SK305	Ｊ４	土坑	楕円形	弓状	0.69	〈0.30〉	0.18	2			SK306を切る
3	SK306	Ｊ４	土坑	楕円形	台形状	〈1.28〉	〈0.49〉	0.24	3		珠洲焼1・台石1	SK305に切られる
4	SK312	Ｊ３・Ｊ４	土坑	方形	箱状	1.30	1.22	0.50	4	N-79°-E		SD303・SD304に切られる
4	SK317	Ｊ３	土坑	長方形	箱状	1.77	〈1.33〉	0.29	6	N-１°-E	珠洲焼2・磨石類3	SD320を切る/SK404に切られる
5	SK319	Ｊ３	土坑	不整方形	箱状	〈0.74〉	0.88	0.10	1		磨石類1	SK370・SK398・SK403に切られる
5	SK330	Ｊ３	土坑	隅丸方形	弓状	0.91	0.73	0.11	2			SK329に切られる/SK331・SK333を切る
5	SK345	Ｊ２	土坑	方形	台形状	1.85	〈1.41〉	0.31	2	N-８°-E		SK395を切る
6	SK355	Ｊ２	土坑	円形	不整台形状	0.71	0.63	0.13	2			SK358を切る/SK359に切られる
6	SK369	Ｊ２	土坑	不整形	台形状	〈0.78〉	0.85	0.29	5			
5	SK395	Ｊ３	土坑	方形	台形状	〈1.30〉	〈1.02〉	0.19	2	N-３°-W		SK345に切られる
3	SK302	Ｊ４	ピット	楕円形	階段状	1.01	0.72	0.45	3			SK301を切る
3	SK303	Ｊ４	ピット	方形？	台形状	0.26	〈0.10〉	0.28	1			
3	SK304	Ｊ４	ピット	円形	Ｕ字状	0.29	0.28	0.22	2			
4	SK307	Ｊ４	ピット	楕円形？	階段状	0.20	0.16	0.18	1			SD302に切られる
6	SK308	Ｊ４	ピット	方形	Ｕ字状	0.34	0.30	0.56	6			
6	SK309	Ｊ４	ピット	方形	台形状	0.27	〈0.20〉	0.04	1			SK310に切られる
6	SK310	Ｊ４	ピット	長方形	階段状	0.50	0.34	0.66	5			SK309を切る
6	SK311	Ｊ４	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.34	0.29	0.25	4			
6	SK313	Ｊ３	ピット	楕円形	箱状	0.47	0.38	0.43	5			SK314を切る
6	SK314	Ｊ３	ピット	楕円形	弓状	〈0.28〉	0.24	0.05	1			SK313に切られる
4	SK315	Ｊ３	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.28	0.25	0.19	1			SD305に切られる
4	SK316	Ｊ３	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.28	0.24	0.16	1			SD320を切る
6	SK318	Ｊ３	ピット	円形	台形状	0.38	0.34	0.40	3			
6	SK320	Ｊ３	ピット	円形	箱状	0.32	0.30	0.36	3			

第２表　遺構観察表（２）

〈　〉内は残存値を示す

図版No.	遺構名	グリッド	種別	平面形	断面形	長軸（m）	短軸（m）	深度（m）	覆土	長軸方位	遺物	他遺構との切り合い関係
6	SK321	Ｊ３	ピット	楕円形	台形状	0.24	0.20	0.36	1			
6	SK322	Ｊ３	ピット	円形	台形状	0.43	0.39	0.68	3			SK323を切る
6	SK323	Ｊ３	ピット	円形	Ｕ字状	0.31	〈0.28〉	0.21	3			SK322に切られる
7	SK324	Ｊ３	ピット	楕円形	弓状	〈0.51〉	〈0.32〉	0.07	1			SK325に切られる
7	SK325	Ｊ３	ピット	円形	Ｕ字状	0.35	0.30	0.36	2			SK324を切る/SK326に切られる
7	SK326	Ｊ３	ピット	方形	台形状	0.45	〈0.25〉	0.52	3			SK325を切る
7	SK327	Ｊ３	ピット	円形	台形状	0.31	〈0.29〉	0.17	1			
7	SK328	Ｊ３	ピット	楕円形	台形状	0.39	0.32	0.40	1			
5	SK329	Ｊ３	ピット	円形	Ｕ字状	0.36	0.33	0.31	1			SK330を切る
5	SK331	Ｊ３	ピット	楕円形	弓状	0.34	〈0.20〉	0.08	1			SK330に切られる/SK332を切る
5	SK332	Ｊ３	ピット	円形	階段状	0.64	〈0.51〉	0.26	2			SK331に切られる
7	SK333	Ｊ３	ピット	略円形	階段状	0.42	0.41	0.26	1			SK330に切られる
7	SK334	Ｊ３	ピット	略円形	箱状	0.48	0.42	0.30	3			SK335を切る
7	SK335	Ｊ３	ピット	楕円形	Ｕ字状？	〈0.27〉	0.31	0.10	1			SK334に切られる
7	SK336	Ｊ３	ピット	楕円形	階段状	0.50	0.31	0.26	3			
7	SK337	Ｊ３	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.36	0.33	0.35	3			SD306に切られる
7	SK338	Ｊ３	ピット	楕円形	台形状	0.42	0.36	0.32	3			SD306に切られる
7	SK339	Ｊ３	ピット	不整形	弓状	0.64	〈0.21〉	0.09	1			SK340に切られる
7	SK340	Ｊ３	ピット	円形	台形状	0.43	0.42	0.50	4			SK339を切る
2	SK341	Ｊ３	ピット	楕円形	台形状	0.24	0.24	0.06	1			SD307に切られる
7	SK342	Ｊ３	ピット	楕円形	半円状	0.42	0.36	0.15	2			
7	SK344	Ｊ３	ピット	楕円形	階段状	0.51	0.34	0.54	1			SD307に切られる
8	SK346	Ｊ２	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.36	0.34	0.41	2			
8	SK347	Ｊ２・Ｊ３	ピット	円形	台形状	0.38	0.34	0.36	3			
8	SK348	Ｊ３	ピット	円形	台形状	0.30	0.26	0.20	1			

第２表　遺構観察表（３）

〈　〉内は残存値を示す

図版No.	遺構名	グリッド	種別	平面形	断面形	長軸（m）	短軸（m）	深度（m）	覆土	長軸方位	遺物	他遺構との切り合い関係
8	SK349	Ｊ２	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.50	〈0.25〉	0.53	5			SD319を切る
8	SK350	Ｊ２	ピット	円形	箱状	0.43	0.42	0.51	4		砥石１	
10	SK351	Ｊ２	ピット	略円形	台形状	0.26	0.25	0.17	2			SD319に切られる
8	SK352	Ｊ２	ピット	円形？	台形状？	0.22	0.19	0.13	2			SD319に切られる
2	SK353	Ｊ２	ピット	楕円形	階段状	0.33	0.25	0.18	1			
2	SK354	Ｊ２	ピット	楕円形	弓状	0.27	0.23	0.09	1			
8	SK356	Ｊ３	ピット	円形	箱状	0.23	0.22	0.16	1			
8	SK357	Ｊ２	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.31	0.26	0.40	1			SK362に切られる
6	SK358	Ｊ２	ピット	楕円形	弓状	〈0.15〉	0.19	0.11	1			SK355・SK359に切られる
6	SK359	Ｊ２	ピット	楕円形	弓状	0.42	0.27	0.13	1			SK355・SK358を切る
8	SK360	Ｊ２	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.27	〈0.23〉	0.55	2			
2	SK361	Ｊ２	ピット	楕円形	台形状	0.27	0.23	0.10	1			
8	SK362	Ｊ２	ピット	楕円形	台形状	〈0.49〉	0.52	0.07	1			SD311に切られる/SK357を切る
2	SK363	Ｊ２	ピット	楕円形	箱状	0.24	0.17	0.04	1			
2	SK364	Ｊ２	ピット	楕円形	階段状	0.31	0.22	0.09	1			
2	SK365	Ｊ２	ピット	円形	箱状	0.37	0.35	0.05	1			
2	SK366	Ｊ２	ピット	楕円形	箱状	0.39	0.31	0.06	1			
2	SK367	Ｊ２	ピット	方形	箱状	0.28	0.28	0.05	1			
2	SK368	Ｊ２	ピット	楕円形	箱状	0.24	0.21	0.10	1			
5	SK370	Ｊ３	ピット	楕円形	台形状	0.41	0.33	0.19	3			SK319に切られる
2	SK371	Ｊ２	ピット	円形	箱状	0.33	0.28	0.10	1			
2	SK372	Ｊ２	ピット	楕円形	弓状	0.21	0.18	0.23	1			
8	SK373	Ｊ２	ピット	円形	Ｖ字状	0.31	0.30	0.12	2			SK374を切る
8	SK374	Ｊ２	ピット	不整楕円形	Ｕ字状	〈0.47〉	0.42	0.15	3			SK373に切られる/SK375を切る
8	SK375	Ｊ２	ピット	楕円形	Ｕ字状	〈0.39〉	0.38	0.32	4			SK374・SD313に切られる/SK376を切る

第２表　遺構観察表（４）

〈　〉内は残存値を示す

図版№	遺構名	グリッド	種別	平面形	断面形	長軸（m）	短軸（m）	深度（m）	覆土	長軸方位	遺物	他遺構との切り合い関係
8	SK376	Ｊ２	ピット	方形？	台形状？	〈0.18〉	0.30	0.12	1			SK375・SK313に切られる/SK377を切る
8	SK377	Ｊ２	ピット	楕円形	弓状	〈0.69〉	0.38	0.21	1			SK376に切られる
9	SK378	Ｊ２	ピット	不整円形	台形状	0.48	0.42	0.24	4			SD315を切る
9	SK380	Ｊ２	ピット	楕円形	階段状	0.42	0.28	0.50	5			
9	SK381	Ｊ２	ピット	円形	Ｕ字状	0.35	0.32	0.26	4			
9	SK382	Ｊ２	ピット	円形	Ｖ字状	0.25	0.22	0.11	1			SK383を切る
9	SK383	Ｊ２	ピット	楕円形	Ｖ字状	0.47	〈0.30〉	0.16	1			SK382に切られる/SK384を切る
9	SK384	Ｊ１・Ｊ２	ピット	楕円形	Ｖ字状	〈0.41〉	0.32	0.21	3			SK383に切られる
9	SK385	Ｊ２	ピット	方形	台形状	0.51	0.42	0.18	2			SK397を切る
2	SK386	Ｊ１	ピット	楕円形	箱状	0.41	0.33	0.04	1			
9	SK387	Ｊ１	ピット	方形	箱状	0.26	0.25	0.20	3			
9	SK388	Ｊ１	ピット	楕円形	階段状	0.78	0.40	0.21	5			SD316を切る
2	SK389	Ｊ１	ピット	円形？	箱状	〈0.30〉	0.28	0.16	1			
10	SK390	Ｊ１	ピット	不整楕円形	Ｕ字状	0.62	〈0.40〉	0.35	4			SD317に切られる
10	SK391	Ｊ１	ピット	楕円形	台形状	〈0.63〉	0.53	0.24	5			SD317に切られる
2	SK392	Ｊ１	ピット	楕円形	弓状	0.28	0.14	0.18	1			
2	SK393	Ｊ１	ピット	円形	弓状	0.31	0.21	0.15	1			
10	SK394	Ｊ３	ピット	円形	箱状	0.33	0.33	0.38	4			SD306・SD307に切られる
4	SK396	Ｊ４	ピット	略円形	Ｕ字状	0.28	〈0.25〉	0.21	1		磨石類１	
9	SK397	Ｊ１・Ｊ２	ピット	不整形	Ｖ字状	〈0.47〉	0.40	0.14	1			SK385に切られる
5	SK398	Ｊ３	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.23	〈0.14〉	0.50	2			SK319を切る
3	SK399	Ｊ４	ピット	円形	台形状	0.33	0.30	0.20	3			
10	SK400	Ｊ１	ピット	楕円形	Ｕ字状	0.36	0.35	0.14	1			SD317に切られる
10	SK401	Ｊ１	ピット	方形？	台形状	0.39	0.32	0.12	1			SD317に切られる
5	SK403	Ｊ３	ピット	不整形	弓状	0.37	0.28	0.19	1			SK319に切られる

第２表　遺構観察表（５）

〈　〉内は残存値を示す

図版№	遺構名	グリッド	種別	平面形	断面形	長軸（m）	短軸（m）	深度（m）	覆土	長軸方位	遺物	他遺構との切り合い関係
4	SK404	Ｊ３	ピット	不明	Ｕ字状	0.25	－	26.00	2			SK317を切る
4	SD301	Ｊ４	溝状遺構	直線形	台形状	1.67	0.40	0.04	1	N-87°-E	台石１・磨石１	
4	SD302	Ｊ４	溝状遺構	直線形	Ｖ字状	2.74	0.72	0.08	1	N-86°-W	珠洲焼1	SD305に切られる
4	SD303	Ｊ３	溝状遺構	直線形	台形状	0.85	0.29	0.08	1			SK312を切る
4	SD304	Ｊ３・Ｊ４	溝状遺構	直線形	台形状	2.42	0.72	0.30	1	N-80°-W	珠洲焼2・青磁1	SK312を切る/SD305に切られる
4	SD305	Ｊ３・Ｊ４	溝状遺構	Ｌ字形	台形状	4.21	0.56	0.14	3		磨石類１	SK317に切られる/SD304・SD302・SK315・SK396を切る
2・7・10	SD306	Ｊ３	溝状遺構	直線形	台形状	2.73	0.45	0.04	1	N-82°-W		SK337・SK338・SK394を切る/SD307に切られる
2・7・8・10	SD307	Ｊ２・Ｊ３	溝状遺構	直線形	台形状	4.25	0.30	0.03	1	N-7°-E		SK344・SK394・SD306を切る
2	SD308	Ｊ２	溝状遺構	直線形	台形状	0.20	0.18	0.07	1	N-12°-E		SD307・SD309と同一か
2	SD309	Ｊ２	溝状遺構	直線形	台形状	0.56	0.23	0.05	1	N-10°-E		SD308と同一か
2	SD310	Ｊ２	溝状遺構	直線形	台形状	0.39	0.33	0.05	1	N-76°-E		
2・8	SD311	Ｊ２	溝状遺構	直線形	台形状	0.77	0.27	0.10	1	N-9°-E		SK362を切る/SD312と同一か
2	SD312	Ｊ２	溝状遺構	直線形	台形状	0.36	0.38	0.05	1	N-10°-E		SD311と同一か
2・8	SD313	Ｊ２	溝状遺構	直線形	弓状？	2.90	〈0.28〉	0.17	1	N-10°-E	剥片1	SK375を切る
9	SD314	Ｊ２	溝状遺構	直線形	階段状	0.45	0.33	0.16	5	N-5°-E		
2・9	SD315	Ｊ２	溝状遺構	直線形	弓状	0.81	0.25	0.07	1	N-8°-E	剥片1	SK378に切られる
10	SD316	Ｊ１	溝状遺構	直線形	台形状	1.73	0.52	0.27	4	N-7°-E		SK388・SD317に切られる/SK402を切る/SD318と同一か
10	SD317	Ｊ１	溝状遺構	直線形	階段状	2.73	1.36	0.24	6	N-87°-E		SK390・SK391・SK400・SK401・SD316・SD318を切る
10	SD318	Ｊ１	溝状遺構	直線形	台形状	2.56	0.63	0.21	2	N-7°-E		SD317に切られる/SD316と同一か
10	SD319	Ｊ２	溝状遺構	不整形	Ｕ字状	0.74	0.38	0.20	3			SK349に切られる/SK351・SK352を切る
4	SD320	Ｊ３	溝状遺構	直線形	弓状	〈0.37〉	0.16	0.10	1	N-83°-W		SK316・SK317に切られる

第３表　陶磁器観察表

打圧密度は３㎝あたり

掲載No.	出土遺構	種別	器種	部位	法量						胎土	色調（外面）	焼成	技法（内/外）・文様		遺物の時期	備考
					口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	厚さ（mm）	重さ（g）	遺存率				内面	外面		
1	SK301	珠洲焼	甕	体部	－	－	－	7.0	10.6	－	～1mm不透明粒子少	5Y5/1	硬	ナデ	平行式打圧痕	Ⅳ期	打圧密度：８目
2	SK301	珠洲焼	甕	体部	－	－	－	8.5	32.8	－	～１㎜白色粒子少	5Y5/1	硬	ナデ	平行式打圧痕	Ⅳ期	打圧密度：９目
3	SK301	珠洲焼	甕	体部	－	－	－	6.0	8.0	－	～１㎜白色粒子少	5Y5/1	硬	ナデ	平行式打圧痕	Ⅳ期	打圧密度：９目
4	SK301	珠洲焼	甕	体部	－	－	－	8.0	15.4	－	～１㎜白色粒子少	5Y5/1	硬	ナデ	平行式打圧痕	Ⅳ期	打圧密度：９目
5	SK301	珠洲焼	片口鉢	底部	－	－	－	14.0	125.1	－	～１㎜不透明粒子少	5Y5/1	普	ロクロナデ	ロクロナデ	－	
6	SK301	珠洲焼	片口鉢	口縁部	－	－	－	10.0	114.5	－	～１㎜白色透明粒子少	5Y6/1	普	ロクロナデ	ロクロナデ／卸し目	Ⅳ期	卸し目：1単位3cm当たり11目
8	SK306	珠洲焼	甕	体部	－	－	－	8.0	51.6	－	～１㎜白色粒子少	5Y6/1	硬	押圧痕/ナデ	平行式打圧痕	Ⅴ期？	打圧密度：８目
9	SK317	珠洲焼	甕	体部	－	－	－	5.9	13.7	－	～１㎜不透明粒子微	5Y6/1	普	押圧痕/ナデ	平行式打圧痕	Ⅴ期～	打圧密度：９目
10	SK317	珠洲焼	甕	底部	－	－	－	18.0	106.7	－	～１㎜白色不透明粒子微	5Y6/1	普	－	ロクロナデ	Ⅴ期？	静止糸切痕
13	SD302	珠洲焼	甕	体部	－	－	－	8.0	8.5	－	～1㎜白色粒子少	5Y5/1	普	－	平行式打圧痕	Ⅴ期？	打圧密度：８目
14	SD304	青磁	碗	底部	－	－	－	6.0	20.6	－		2.5GY6/1	硬	－		14～15世紀	隆泉窯
15	SD304	珠洲焼	甕	体部	－	－	－	9.0	10.0	－	～1㎜白色粒子少	5Y5/1	硬	－	平行式打圧痕	Ⅴ期？	打圧密度：７目
16	SD304	珠洲焼	片口鉢	口縁部	－	－	－	9.0	52.7	－	～2㎜白色粒子多	10Y7/1	軟	ロクロナデ/櫛目波状文	ロクロナデ	Ⅴ期	

第４表　石器観察表

掲載No.	出土遺構	器種	法量				石材	備考
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
11	SK350	砥石	7.3	2.9	2.0	69.2	安山岩	
12	SD301	台石	20.5	23.1	7.3	5097.5	安山岩	

第５表　金属製品観察表

掲載No.	出土遺構	種別	法量				備考
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
7	SK301	－	3.9	0.8	0.3	3.7	

第Ⅴ章　まとめ

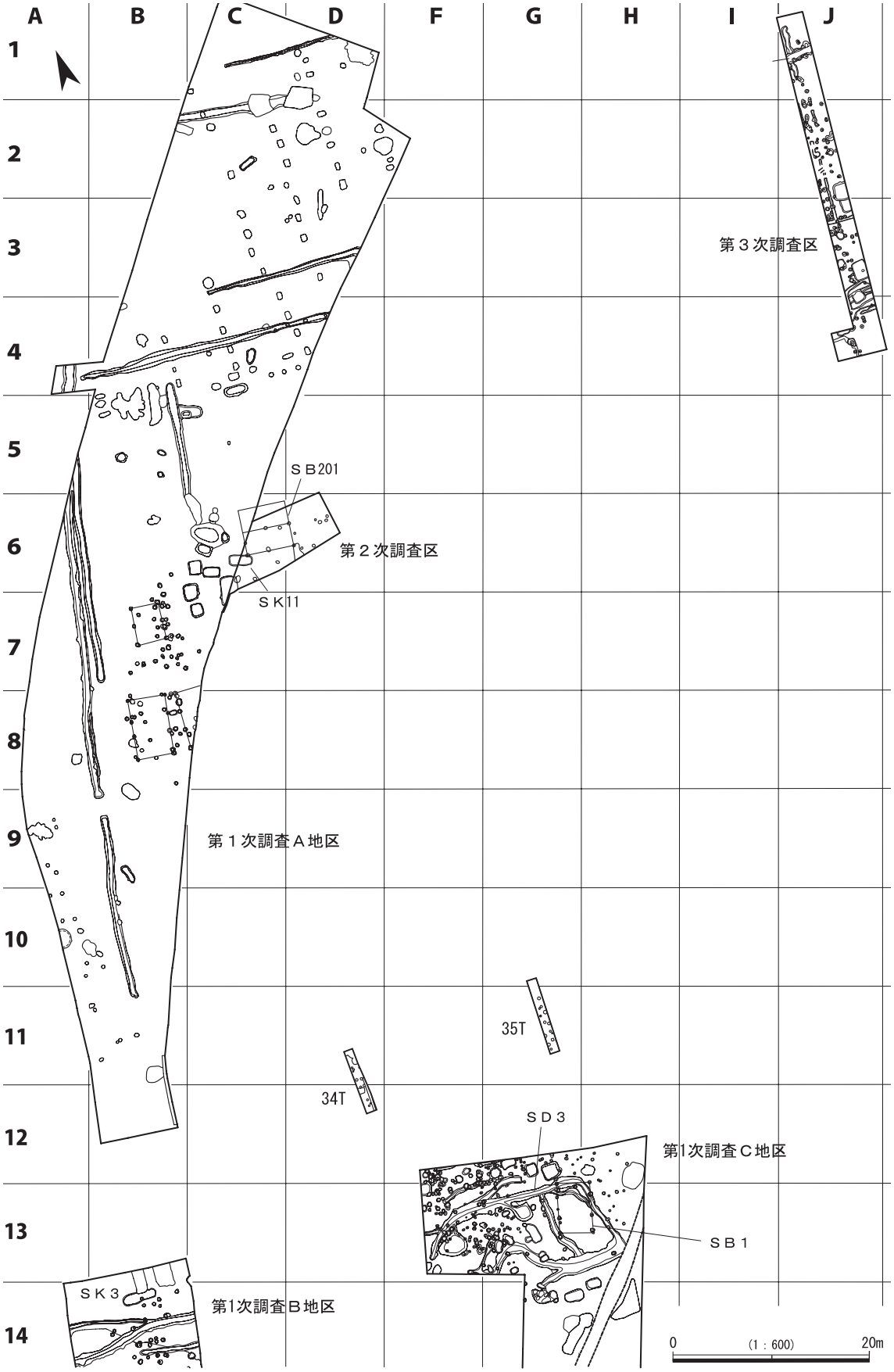
第Ⅰ章でも述べたとおり、第３次調査区は中世期の浦畑遺跡の縁辺部に相当し、遺構密度も低いと予測していた。しかし、102.9㎡という調査面積に対して 121 基もの遺構が検出されるという結果となった。このうちの大多数、90 基はピットに分類される。調査区の制約があり配列を認めることはできなかったが、掘立柱建物跡が複数棟存在していたと推測される。出土した珠洲焼片から得られた年代幅が 14 世紀後半～15 世紀前半（吉岡編年Ⅳ期～Ⅴ期）、とりわけ 15 世紀前半期にまとまるにも関わらず、遺構の重複が相当数認められるため、短期間のうちに活発な土地利用があったと考えられる。

第１次調査Ａ地区・第２次調査区では遺構の重複が少なく、比較的整然とした建物配置が推定される一方、第１次調査Ｃ地区北端では遺構が複雑に重複するという状況が確認されていた。今回実施した第３次調査によって、後者は局所的な様相ではないことが示されたと言える。平成 26 年確認調査（34・35 Ｔ）の結果と合わせると、第３次調査区と第１次調査区Ｃ地区北端を結ぶ範囲に、同様の遺構分布が展開していると予想したい。

しかしながら、西側（第１次調査Ａ地区・第２次調査区）と東側（第１次調査Ｃ地区北端～第３次調査区）とで対照的な遺構分布が示されながらも、各地点とも溝状遺構、掘立柱建物跡（ピット）、方形～長方形プランの土坑という遺構によって構成される点で一致し、これら遺構の軸がほぼ共通することが確認される。方形～長方形プランの土坑が群集する傾向も共通しており、ここからは、中世期における存続期間において遺跡全体が共通する計画あるいは意識によって包括的に利用され、その上で遺構群が構築されていた可能性が示唆される。つまり西側と東側にみられる遺構分布の在り方の相違は、全体における施設の性格や位置付けの違いに起因するのだろう。

第１次調査においては、Ｃ地区ＳＤ３における和鏡の特異な出土状況を祭祀行為の結果とし、加えて方形～長方形プランの土坑を土壙墓とみることによって、遺跡を在地勢力の葬送の場として捉えた。続く第２次調査では、方形～長方形プランの土坑群を取り囲む建物配置と日常具の欠落から、ここに非日常的な空間を想定した。第３次調査の成果も、通常の集落遺跡ではないという遺跡への理解に沿うものである。ただし、Ｊ３グリット周辺で確認される遺構の切り合い関係をみると、ＳＫ 312 →ＳＤ 303・304 →ＳＤ 302・ＳＫ 315・396 →ＳＤ 305 →ＳＫ 317 →ＳＫ 404 となっている。したがって、ここでは長方形プランの土坑→溝状遺構→溝状遺構・ピット（掘立柱建物跡？）→溝状遺構→長方形プランの土坑→柱穴（掘立柱建物跡）という変遷が推測される。第１次調査Ｃ地区では溝状遺構ＳＤ３を掘立柱建物跡ＳＢ１が掘り込んでおり、第２次調査区でも長方形プランの土坑ＳＫ 11 を掘立柱建物跡ＳＢ 201 が掘り込んでいることから、中世期における遺跡の変遷にあって、その終末期は建物群だけが作られる時期だったという可能性が示唆される。

このように、第３次調査の実施によって、浦畑遺跡の中世像に対して新たな視座を得ることが出来た。今後、未調査部分の調査によって、その検証を行っていくこととしたい。



第４図　中世期の遺構分布

参考文献（編集と発行が同一の場合、発行元を省略）

井上慶隆　2001 「紙屋荘」越路町編『越路町史』通史編上巻　146-157 頁。

卜部厚志　2008 「長岡市浦畑遺跡における火山灰分析」長岡市教育委員会編『浦畑遺跡』 46-50 頁。

遠藤孝司　1998 「中世の遺跡と遺物〈集落跡・古銭出土地〉」越路町編『越路町史』資料編 1　原始・古代・中世　越路町　289-350 頁。

小田島允武　1815 『越後野志』（新潟県立図書館所蔵）

加藤　学　1999 「遺構の形態分類」新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団編『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集　和泉Ａ遺跡』（本文・観察表編）28-29 頁。

草間文績　1818 『越後輿地図』（長岡市中央図書館文書資料室所蔵）

越路町　1998 『越路町史』資料編 1　原始・古代・中世。

田中洋史　2009 「朝日百塚に関する文献資料」『長岡郷土史』第 46 号　48-50 頁。

長岡郷土史研究会　2002 『長岡の古地図その２』。

長岡市　1992 『長岡市史』資料編 1　考古。

長岡市教育委員会　2007 「来迎寺浦畑地区試掘調査」『平成 18 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 20 頁。

長岡市教育委員会　2008 『浦畑遺跡』。

長岡市教育委員会　2011 『浦畑遺跡Ⅱ』。

長岡市教育委員会　2015 「浦畑遺跡確認調査」『平成 26 年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 8 頁。

鳴海忠夫　1998 「中世の遺跡と遺物〈城館跡〉」越路町編『越路町史』資料編 1　原始・古代・中世　351-412 頁。

新潟県　1987 『新潟県史』別編３　人物編。

文化庁文化財部記念物課・（独法）国立文化財機構奈良文化財研究所　2010 『発掘調査のてびき―整理・報告書編―』文化庁文化財部記念物課。

丸山元純　1756 『越後名寄』巻第五前（今泉省三・真水淳編　1978 『越佐叢書』第十五巻　野島出版　101-114 頁。）

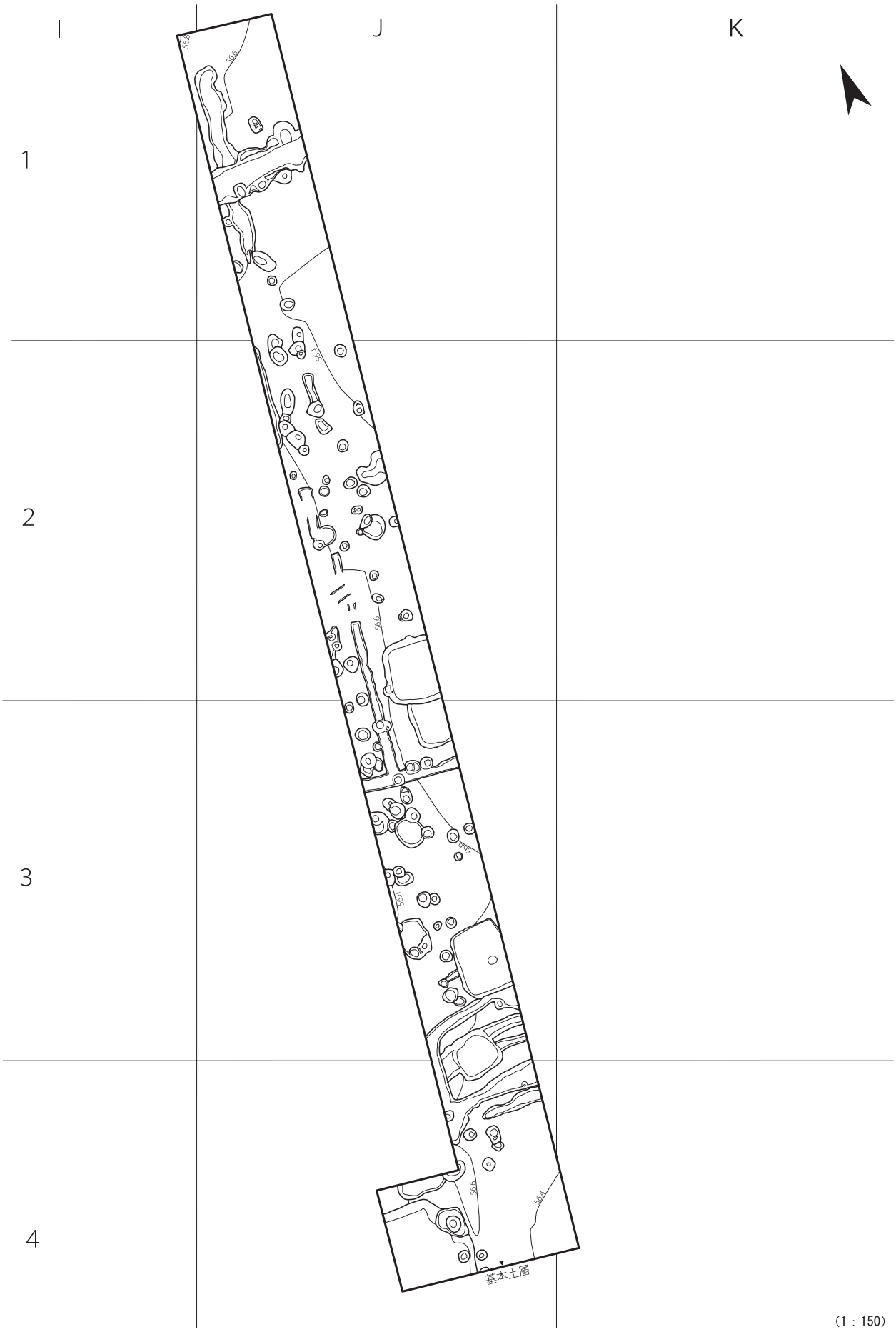
柳　恒雄　1998 「越路町の大地概観　先人たちの生活基盤」越路町編『越路町史』資料編 1　原始・古代・中世　4-5 頁。

吉岡康暢　1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館。

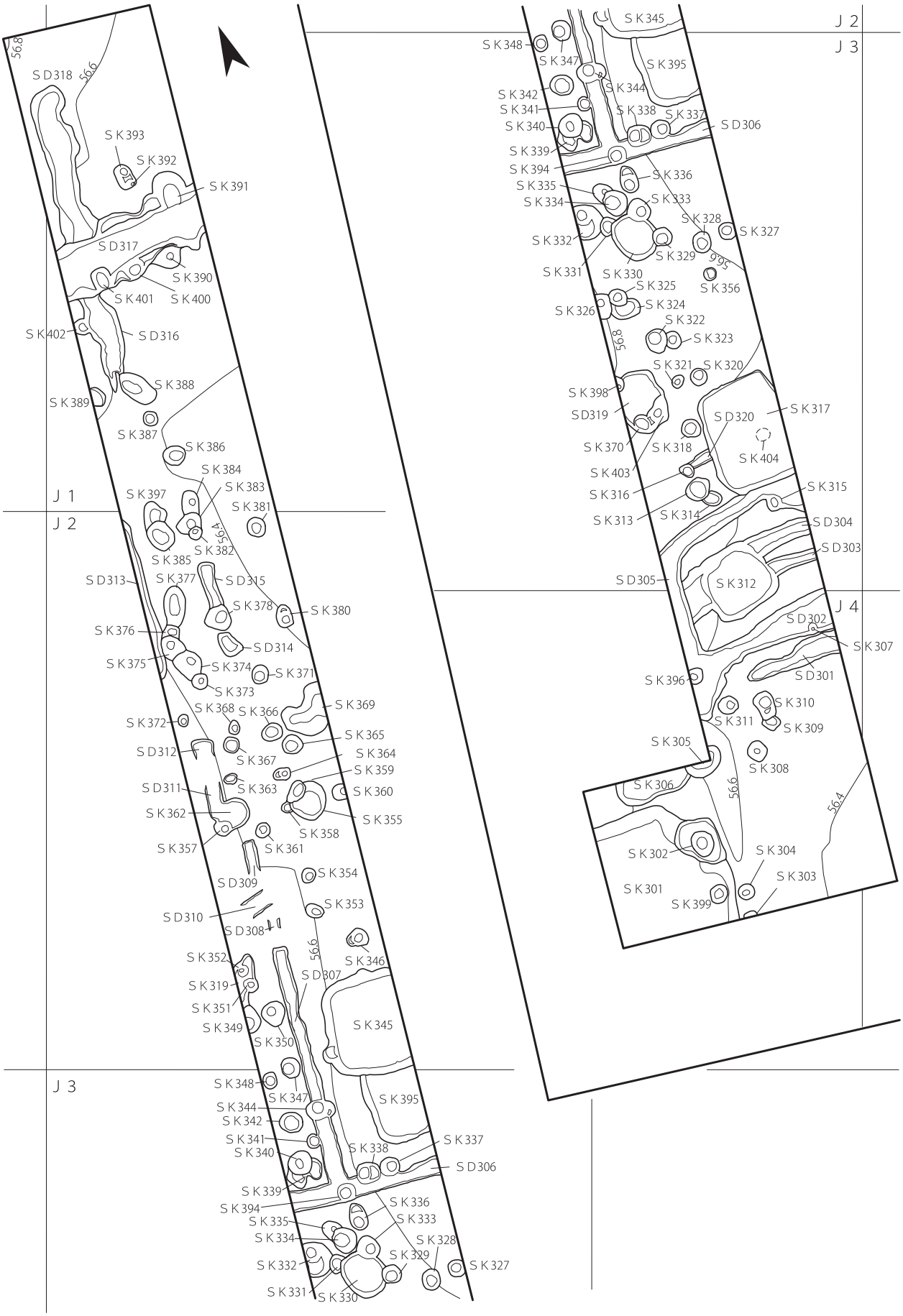
渡辺秀夫　2007 「新潟県越後平野南西部の河成段丘の編年と構造運動」『地球科学』第 61 号　129-142 頁。

図　　版

遺構全体図①



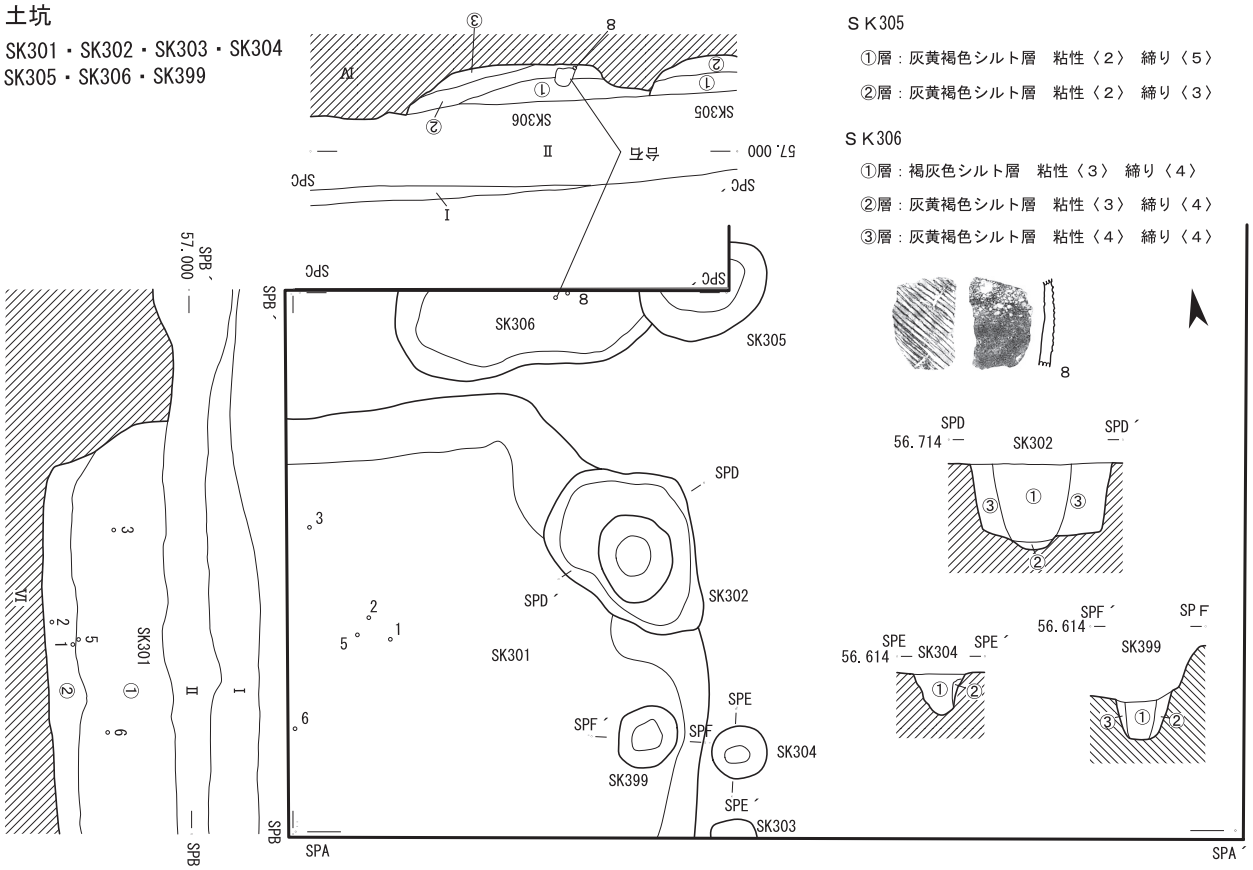
（1：150）

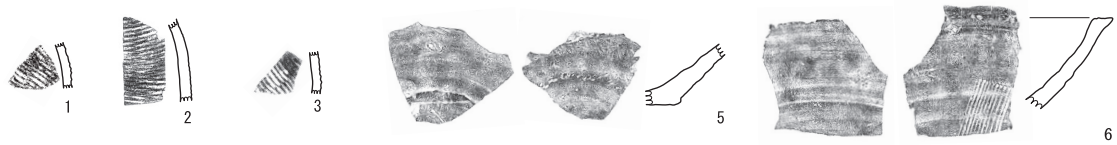

J 1
J 2
J 3
J 4
S D318
S K393
S K392
S K391
S D317
S K390
S K401
S K400
S K402
S D316
S K388
S K389
S K387
S K386
S K384
S K383
S K397
S K381
S K382
S K385
S D313
S K377
S D315
S K378
S K380
S K376
S D314
S K375
S K374
S K371
S K373
S K368
S K366
S K369
S K372
S K365
S D312
S K367
S K364
S K359
S D311
S K363
S K360
S K362
S K355
S K358
S K357
S K361
S K354
S D309
S K353
S D310
S D308
S K352
S K346
S D307
S K319
S K351
S K349
S K350
S K345
S K348
S K347
S K344
S K342
S K341
S K340
S K338
S K337
S D306
S K339
S K394
S K336
S K335
S K333
S K334
S K328
S K332
S K329
S K327
S K331
S K330
S K325
S K356
S K326
S K324
S K322
S K323
S K321
S K320
S K398
S D319
S D320
S K317
S K370
S K318
S K404
S K403
S K316
S K315
S K313
S K314
S D304
S D303
S D305
S K312
S D302
S K307
S K396
S D301
S K310
S K311
S K309
S K305
S K308
S K306
S K302
S K304
S K303
S K301
S K399
56.8
56.6
56.4
56.5

（1：100）

土坑

SK301・SK302・SK303・SK304
SK305・SK306・SK399





ＳＫ301

①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
径 40mm 以下ローム 30%、径 10mm 以下炭化物２%、
径 20mm 以下礫２%

②層：褐灰色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
径 40mm 以下ローム 20%、径５mm 以下炭化物１%、
径 30mm 以下礫２%、径 20mm 以下焼土１%

③層：灰黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉
径 40mm 以下ローム 30%、径２mm 以下炭化物１%、
径 10mm 以下礫１%、径５mm以下焼土１%

ＳＫ302

①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉

②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉　崩落土

③層：明黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈５〉

ＳＫ303

①層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉
径 20mm 以下ローム７%、径５mm 以下炭化物２%

ＳＫ304

①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉
径 20mm 以下ローム７%、径４mm 以下炭化物１%

②層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈５〉
径 20mm 以下ローム 40%、径１mm 以下炭化物微量

ＳＫ399

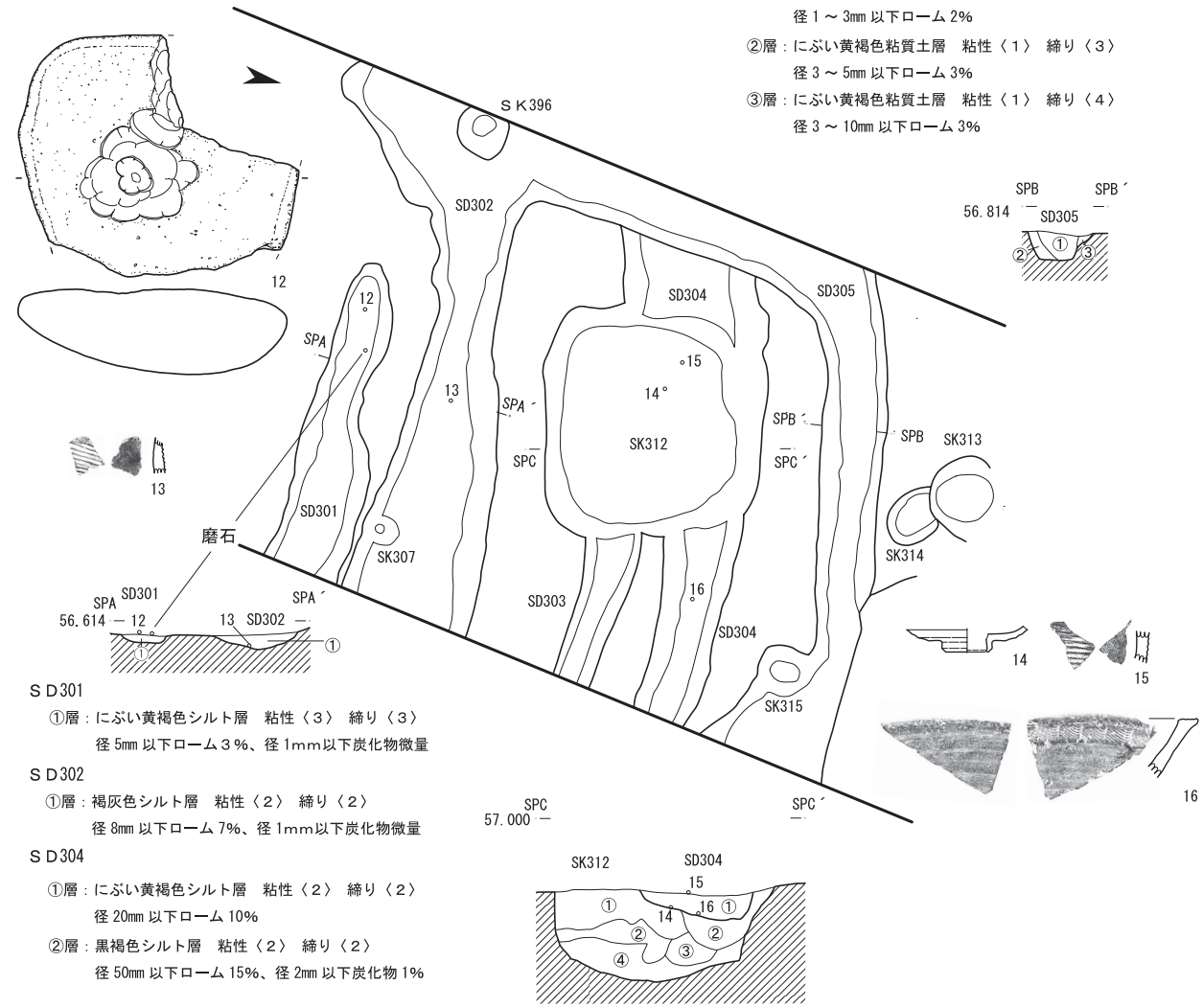
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈３〉
径１～５mm 以下ローム４%、径３mm 以下炭化物２%

②層：褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉
径５～ 10mm 以下ローム５%

③層：褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈４〉
径１～ 20mm 以下ローム５%

遺構図（1：40）　遺物（1：6）

SK312・SD301・SD302・SD303・SD304・SD305



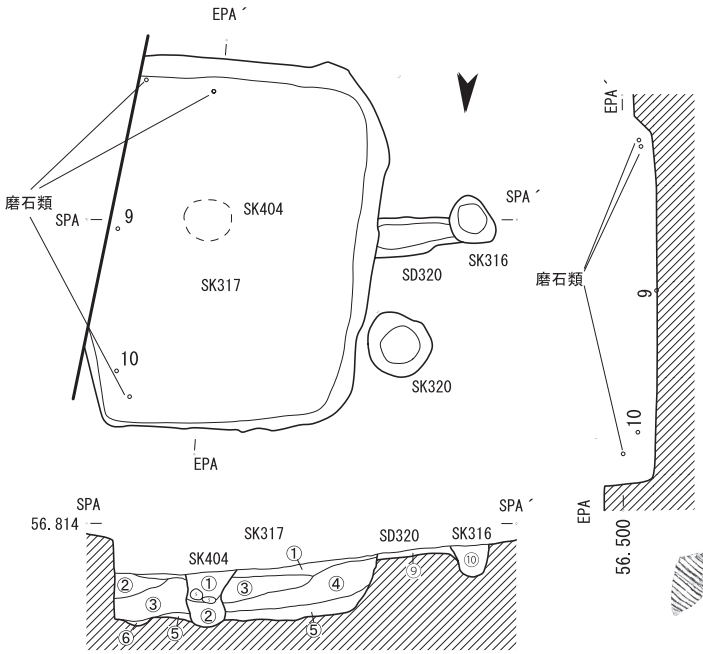
ＳＤ305
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
径１～3mm 以下ローム 2%
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈３〉
径３～5mm 以下ローム 3%
③層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉
径３～10mm 以下ローム 3%

ＳＤ301
①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
径 5mm 以下ローム３%、径 1mm以下炭化物微量

ＳＤ302
①層：褐灰色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
径 8mm 以下ローム 7%、径 1mm以下炭化物微量

ＳＤ304
①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
径 20mm 以下ローム 10%
②層：黒褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
径 50mm 以下ローム 15%、径 2mm 以下炭化物 1%

SK317・SK404

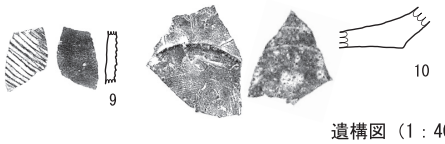


ＳＫ317　①層：褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉
径１～20mm 以下ローム 2%
②層：暗褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈２〉
径２～5mm 以下ローム 2%
③層：暗褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉
径２～20mm 以下ローム 4%、径 2mm 以下炭化物 2%
④層：暗褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
径１～10mm 以下ローム２%
⑤層：暗褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
径１～10mm 以下ローム 3%、径 2mm 以下炭化物 2%
⑥層：暗褐色粘質土層　粘性〈４〉　締り〈２〉
径３～5mm 以下ローム 5%

ＳＫ404　①層：暗褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉
径１～5mm 以下ローム 3%
②層：暗褐色粘質土層　粘性〈４〉　締り〈２〉
径１～3mm 以下ローム 2%

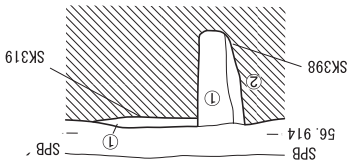
ＳＤ320　①層：明黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈５〉

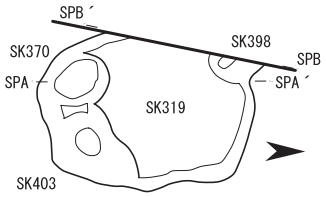
ＳＫ316　①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉

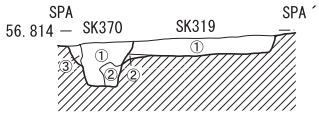


遺構図（1：40）　遺物（1：6）

SK319・SK370・SK398・SK398







ＳＫ319

①層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈４〉　締り〈５〉
　　径 20mm 以下ローム 40%、径 3mm以下炭化物微量

②層：明黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈５〉
　　径 5mm 以下Ⅲ層土 1%

③層：明黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈５〉
　　径 3mm 以下Ⅲ層土 1%

ＳＫ370

①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉
　　径 20mm 以下ローム 20%、径 3mm以下炭化物微量

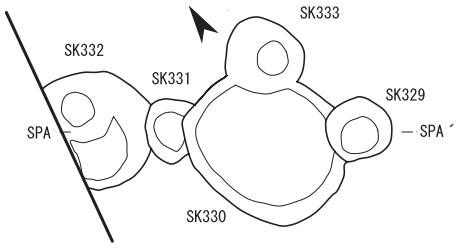
②層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉
　　径 10mm 以下ローム 40%

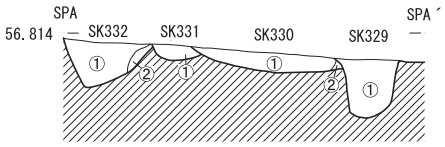
ＳＫ398

①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈３〉
　　径 1 ～ 5mm 以下ローム 3%、径２mm 以下炭化物 2%

②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈４〉　締り〈３〉
　　径 1 ～ 20mm 以下ローム 4%、径 2mm 以下炭化物 1%

SK329・SK330・SK331・SK332・SK333





ＳＫ329

①層：暗褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉
　　径 20mm 以下ローム 3%

②層：明黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈３〉　崩落土
　　径 10mm 以下ローム 40%

ＳＫ330

①層：黒褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉
　　径 2mm 以下ローム微量、径 1mm以下炭化物微量

ＳＫ331

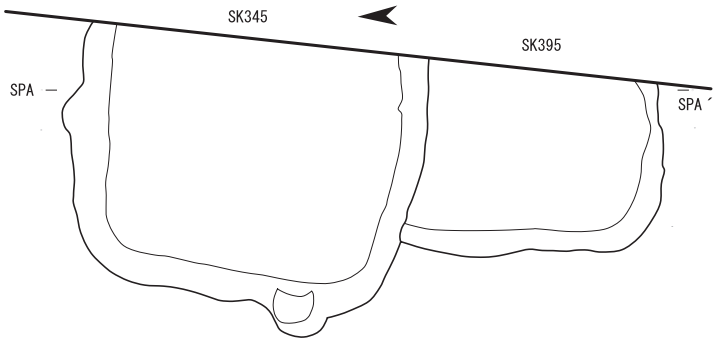
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈５〉
　　径 30mm 以下ローム 40%

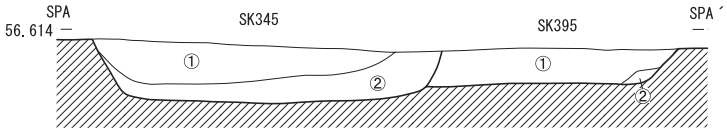
ＳＫ332

①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
　　径 20mm 以下ローム 20%

②層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉

SK345・SK395





ＳＫ345

①層：暗褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈３〉
　　径 1 ～ 10mm 以下ローム 3%、径 4mm 以下炭化物 1%

②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉
　　径 2 ～ 20mm 以下ローム 4%、径 5mm 以下炭化物 1%

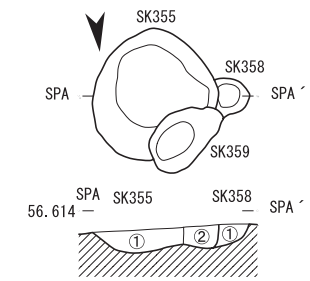
ＳＫ395

①層：にぶい黄橙色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉
　　径 1 ～ 30mm 以下ローム 5%、径 5mm 以下炭化物 1%

②層：褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉　崩落土
　　径 5 ～ 20mm 以下ローム 4%

遺構図（1：40）　遺物（1：6）

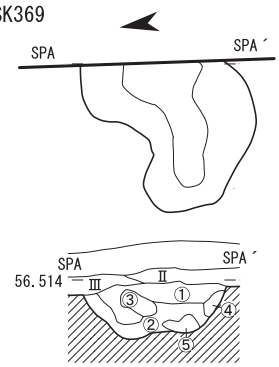
SK355・SK358



ＳＫ355
①層：黒褐色シルト
粘性〈４〉　締り〈３〉
②層：明黄褐色シルト層
粘性〈４〉　締り〈４〉

ＳＫ358
①層：にぶい黄褐色シルト
粘性〈３〉　締り〈２〉

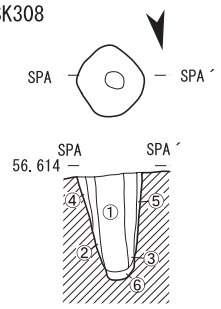
SK369



ＳＫ369
①層：褐灰色シルト層
粘性〈３〉　締り〈４〉
②層：にぶい黄橙色シルト層
粘性〈３〉　締り〈３〉
③層：黄橙色シルト層
粘性〈３〉　締り〈４〉　崩落土
④層：黄橙色シルト層
粘性〈４〉　締り〈４〉　崩落土
⑤層：にぶい黄橙色シルト層
粘性〈３〉　締り〈３〉　崩落土

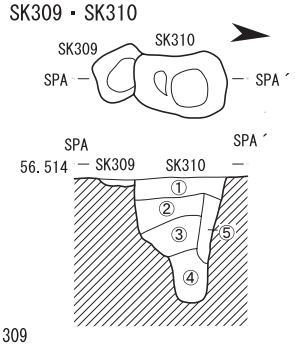
ピット

SK308



ＳＫ308
①層：暗褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈３〉
②層：暗褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈４〉
③層：暗褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈４〉
④層：黄褐色粘質土層　粘性〈２〉締り〈５〉
⑤層：黄褐色粘質土層　粘性〈２〉締り〈５〉
⑥層：明黄褐色粘質土層　粘性〈４〉締り〈４〉

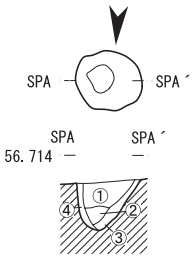
SK309・SK310



ＳＫ309
①層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉

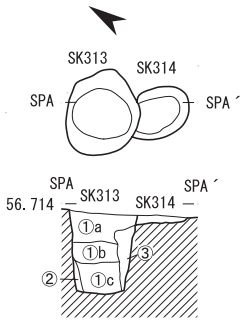
ＳＫ310
①層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉
②層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
③層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈２〉
④層：黄橙色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉
⑤層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉

SK311



ＳＫ311
①層：暗褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈４〉
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈４〉　締り〈２〉
③層：明黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈５〉　崩落土
④層：黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉　崩落土

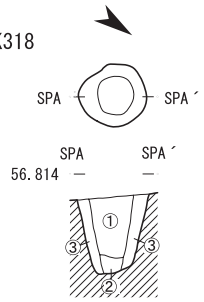
SK313・SK314



ＳＫ313
①a 層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉
①b 層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈３〉
①c 層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
②層：黄橙色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉
③層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉

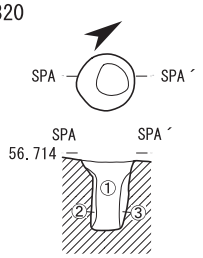
ＳＫ314
①層：黄橙色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉

SK318



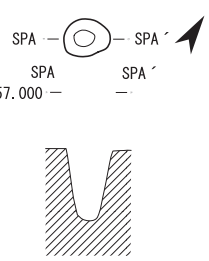
ＳＫ318
①層：黒褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈４〉　締り〈３〉
③層：黒褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉

SK320

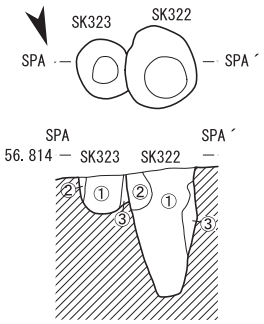


ＳＫ320
①層：褐灰色シルト層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：褐灰色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
③層：褐灰色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉

SK321



SK322・SK323

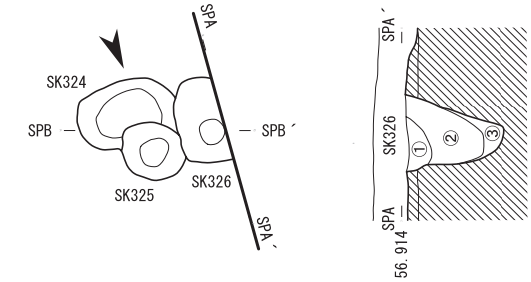


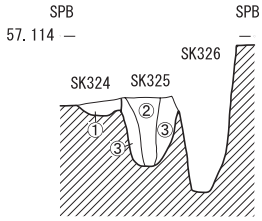
ＳＫ322
①層：褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉　崩落土
③層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈２〉

ＳＫ323
①層：褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈２〉
②層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
③層：明黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉　崩落土

遺構図（1：40）　遺物（1：6）

SK324・SK325・SK326



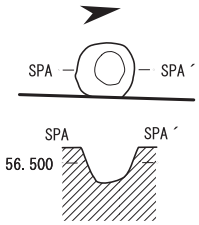


ＳＫ326
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉
③層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉

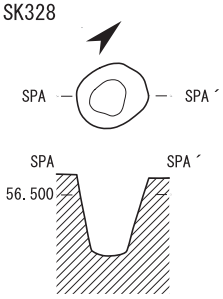
ＳＫ324
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉

ＳＫ325
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉

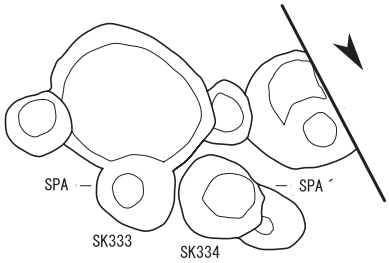
SK327

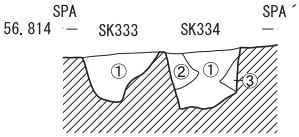


SK328



SK333・SK334

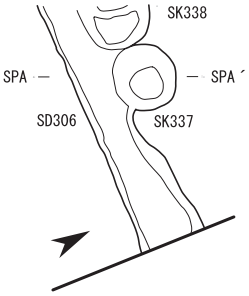


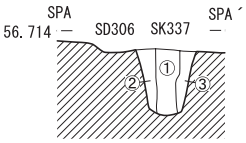


ＳＫ333
①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉

ＳＫ334
①層：暗褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈３〉
②層：暗褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈２〉
③層：暗褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈３〉

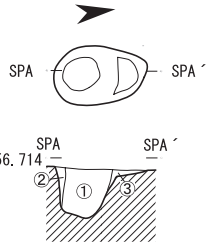
SK337・SD306





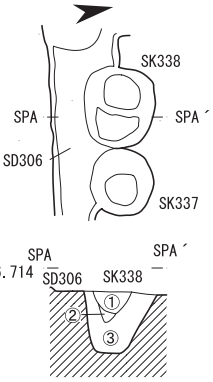
ＳＫ337
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉
②層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈５〉
③層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈５〉

SK336



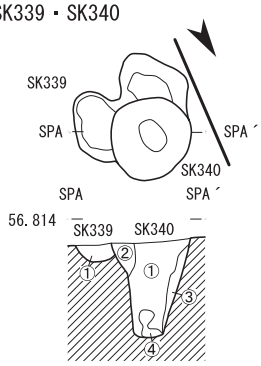
ＳＫ336
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈５〉
③層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉

SK338・SD306



ＳＫ338
①層：黒褐色粘質土層　粘性〈４〉　締り〈２〉
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈３〉
③層：明黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈５〉

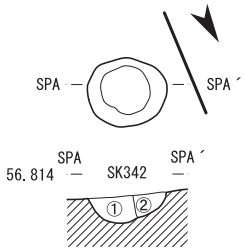
SK339・SK340



ＳＫ339
①層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉

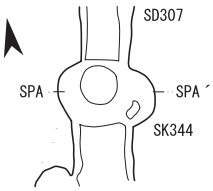
ＳＫ340
①層：褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈２〉　締り〈３〉
③層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
④層：明黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈３〉

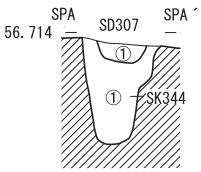
SK342



ＳＫ342
①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
②層：褐灰色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉

SK344・SD307



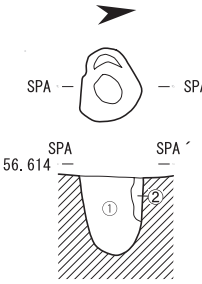


ＳＫ344
①層：褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉

ＳＤ307
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈３〉

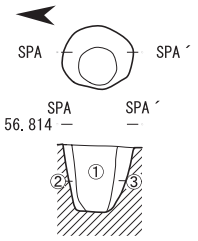
遺構図（1：40）

SK346



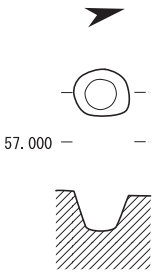
ＳＫ346
①層：褐灰色シルト層
粘性〈２〉　締り〈４〉
②層：黄橙色シルト層
粘性〈３〉　締り〈５〉

SK347

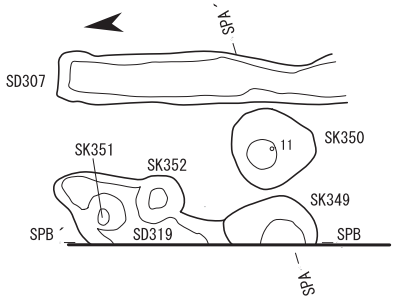


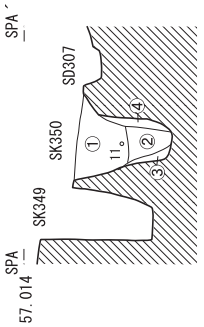
ＳＫ347
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉
③層：にぶい黄橙色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈３〉

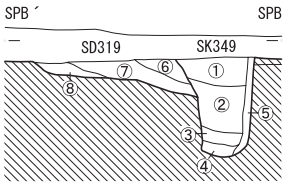
SK348

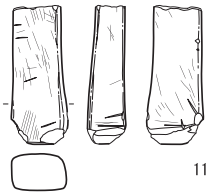


SK349・SK350・SD307・SD319







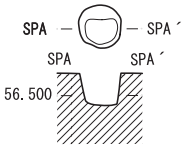


ＳＫ349
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
③層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉
④層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈３〉
⑤層：にぶい黄橙色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈５〉　崩落土

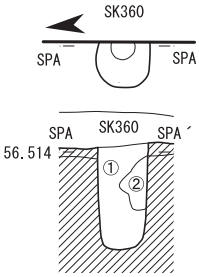
ＳＫ350
①層：暗褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉
③層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉
④層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈２〉

ＳＤ319
①層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：暗褐色粘質土層　粘性〈３〉　締り〈３〉
③層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈５〉

SK356

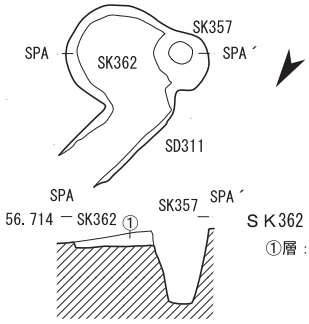


SK360



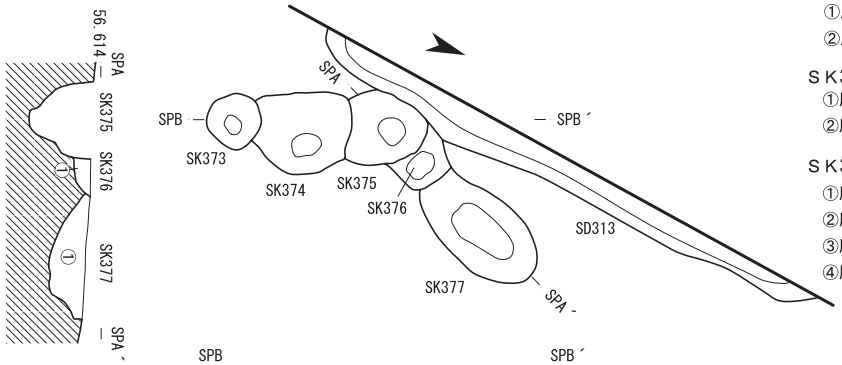
ＳＫ360
①層：灰黄褐色シルト層
粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：灰黄褐色シルト層
粘性〈３〉　締り〈４〉

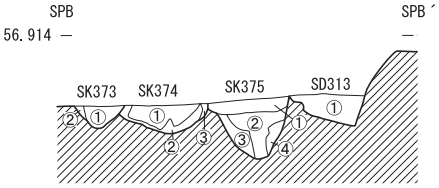
SK362・SD311



ＳＫ362
①層：にぶい黄橙色シルト層
粘性〈２〉　締り〈４〉

SK373・SK374・SK375・SK376・SK377・SD313





ＳＫ373
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉　崩落土

ＳＫ374
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉
②層：黄橙色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉

ＳＫ375
①層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉
②層：黒褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
③層：明黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉　崩落土
④層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉　崩落土

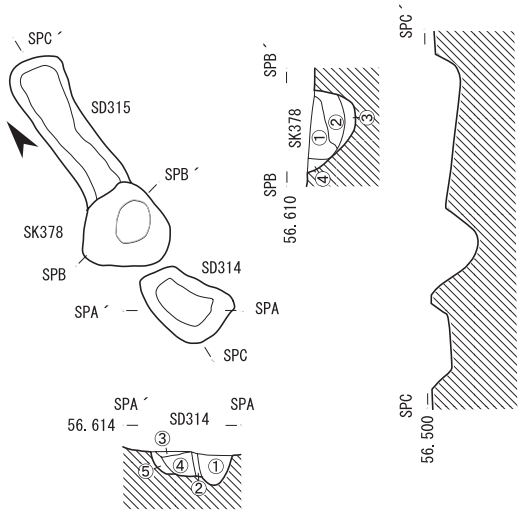
ＳＤ313　①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈５〉

ＳＫ376　①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉

ＳＫ377　①層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉

遺構図（1：40）　遺物図（1：6）

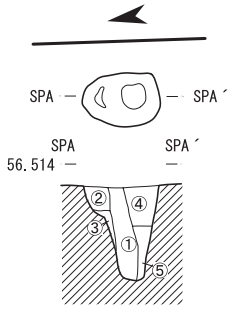
SK378・SD314・SD315



ＳＫ378
①層：暗褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：暗褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈３〉
③層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉
④層：明黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉

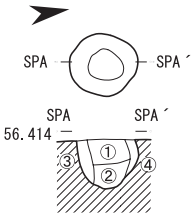
ＳＤ314
①層：暗褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈２〉
②層：黒褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉
③層：灰黄褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈３〉
④層：にぶい黄褐色粘質土層　粘性〈２〉　締り〈４〉
⑤層：黒褐色粘質土層　粘性〈１〉　締り〈４〉　崩落土

SK380



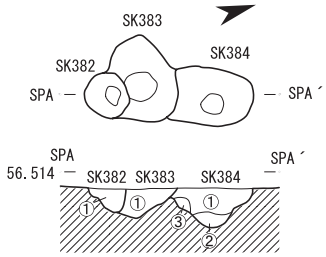
ＳＫ380
①層：暗褐色粘質土層
粘性〈２〉　締り〈４〉
②層：褐色粘質土層
粘性〈１〉　締り〈４〉
③層：褐色粘質土層
粘性〈２〉　締り〈５〉
④層：褐色粘質土層
粘性〈１〉　締り〈３〉
⑤層：暗褐色粘質土層
粘性〈２〉　締り〈２〉

SK381



ＳＫ381
①層：黒褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈２〉
②層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈２〉
③層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
④層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉

SK382・SK383・SK384

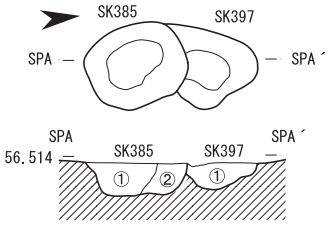


ＳＫ382
①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉

ＳＫ383
①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉

ＳＫ384
①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉
②層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈２〉
③層：黄橙色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉

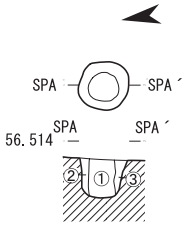
SK385・SK397



ＳＫ385
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉
②層：明黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈３〉

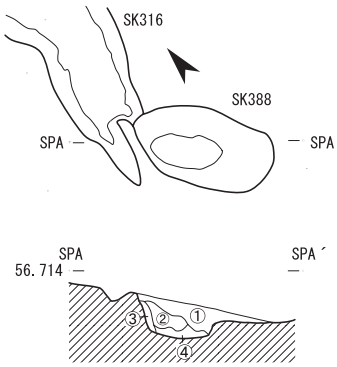
ＳＫ397
①層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉

SK387



ＳＫ387
①層：褐灰色シルト層
粘性〈２〉　締り〈２〉
②層：黄橙色シルト層
粘性〈４〉　締り〈４〉
③層：黄橙色シルト層
粘性〈４〉　締り〈４〉

SK388

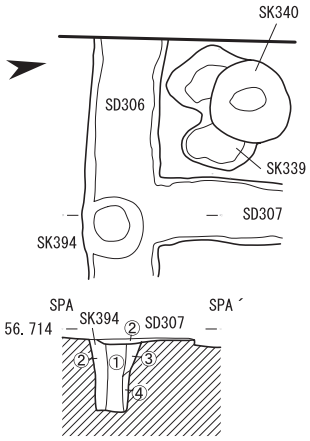


ＳＫ388
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈５〉
②層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉
③層：明黄褐色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉　崩落土
④層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉　崩落土
⑤層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉

遺構図（1：40）

溝状遺構

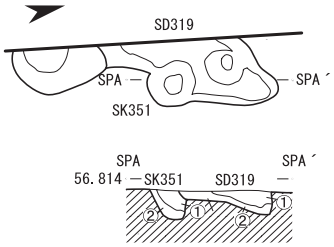
SD307・SK394



ＳＫ394
①層：灰黄褐色シルト層
粘性〈３〉　締り〈４〉
②層：明黄褐色シルト層
粘性〈４〉　締り〈４〉
③層：明黄褐色シルト層
粘性〈４〉　締り〈４〉
④層：黄橙色シルト層
粘性〈４〉　締り〈５〉
⑤層：黄橙色シルト層
粘性〈４〉　締り〈５〉

ＳＤ307
②層：灰黄褐色シルト層
粘性〈４〉　締り〈３〉

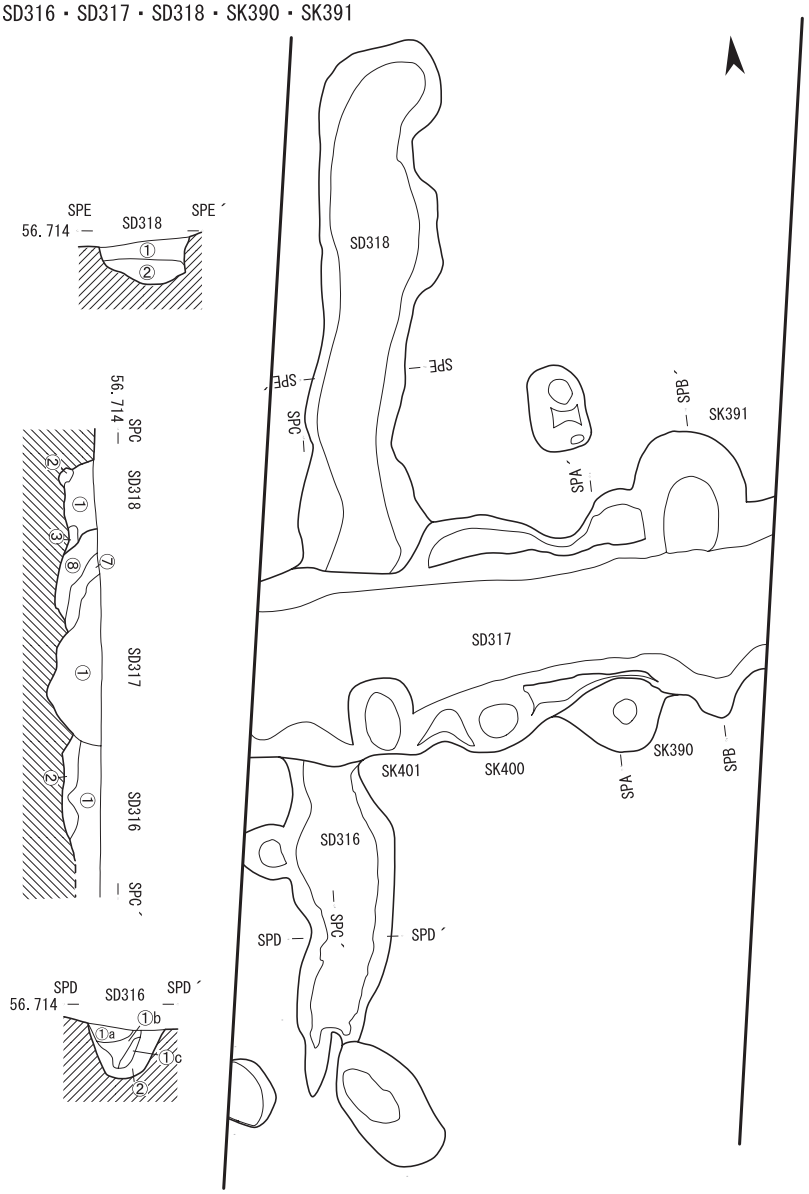
SD319・SK351・SK352



ＳＫ351
①層：にぶい黄褐色シルト層
粘性〈３〉　締り〈４〉
②層：明黄褐色シルト層
粘性〈４〉　締り〈４〉

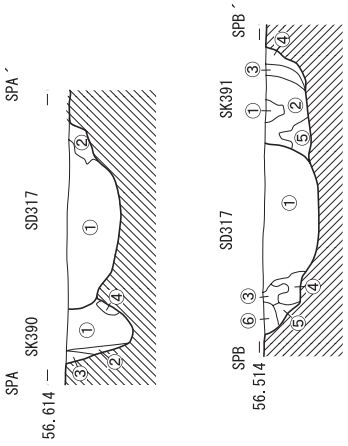
ＳＤ319
①層：にぶい黄褐色粘質土層
粘性〈２〉　締り〈３〉
②層：暗褐色粘質土層
粘性〈３〉　締り〈３〉
③層：にぶい黄褐色粘質土層
粘性〈１〉　締り〈５〉

SD316・SD317・SD318・SK390・SK391



ＳＤ318
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
②層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉

ＳＫ391
①層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
②層：にぶい黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
③層：にぶい黄橙色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
④層：明黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈３〉　崩落土
⑤層：褐灰色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉

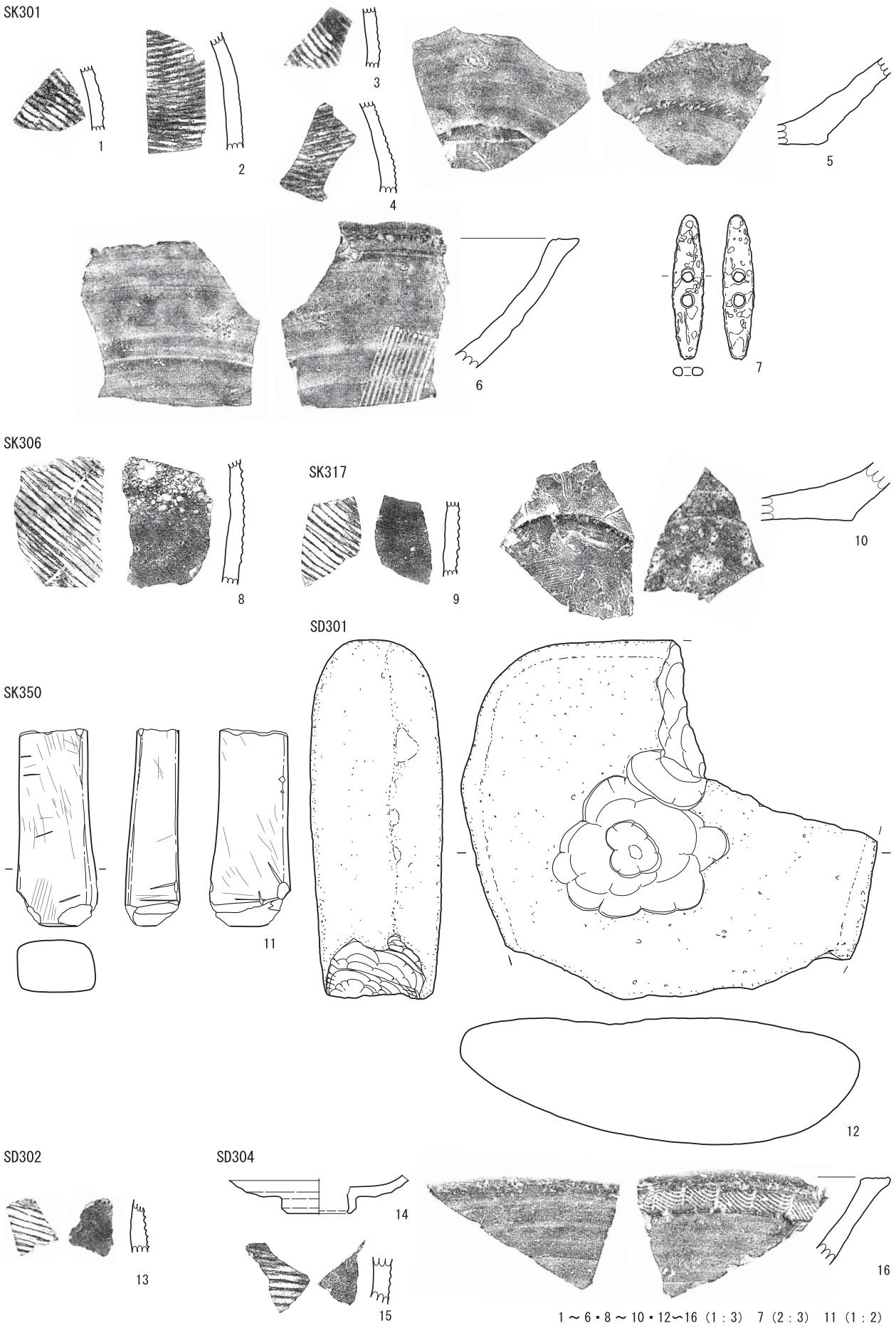


ＳＫ390
①層：黒褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
②層：褐灰色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
③層：黄橙色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
④層：黄橙色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉　崩落土

ＳＤ317
①層：褐灰色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉
②層：明黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉　崩落土
③層：黄橙色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉
④層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈２〉
⑤層：明黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉　崩落土
⑥層：褐灰色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
⑦層：黄橙色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉
⑧層：灰黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈２〉

ＳＤ316
①a 層：灰黄褐色シルト層　粘性〈２〉　締り〈４〉
②b 層：灰黄褐色シルト層　粘性〈３〉　締り〈４〉
③c 層：黄橙色シルト層　粘性〈３〉　締り〈３〉
④層：黄橙色シルト層　粘性〈４〉　締り〈４〉

遺構図（1：40）



1～6・8～10・12～16（1：3）　7（2：3）　11（1：2）

遺跡全景（西から）

遺跡全景（北から）

調査区完掘状態（北から）

調査区完掘状態（北西から）

調査区完掘状態（西から）

調査区着手前（南から）

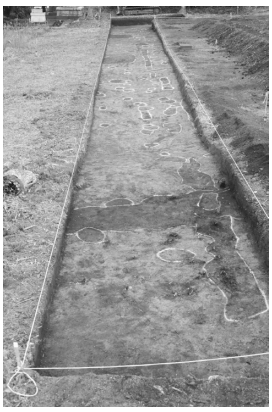
表土剥ぎ　（北東から）

グリッド杭の打設　（南から）

表土剥ぎ完了　（南から）

遺構確認作業（南から）

遺構確認状態（南から）



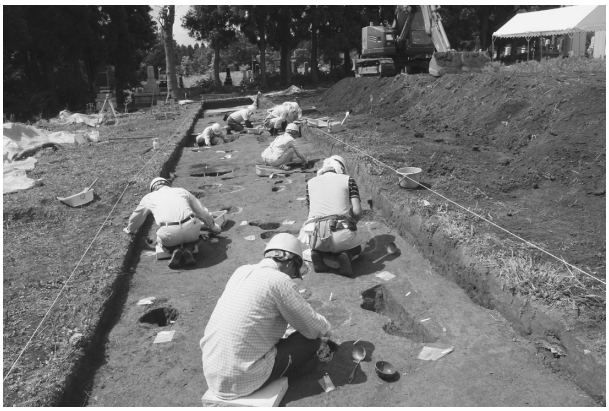
遺構確認状態（北から）

遺構掘削（南から）

遺構掘削（東から）

遺構掘削（南西から）

遺構掘削　（南西から）



遺構掘削　（北から）

断面図の作成　（西から）

測量作業（西から）

対空標識の打設　（南から）

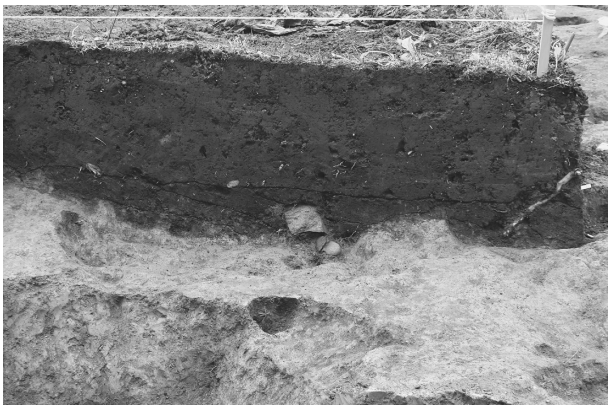
空中撮影（西から）

完掘状況（北から）

完掘状態（南から）

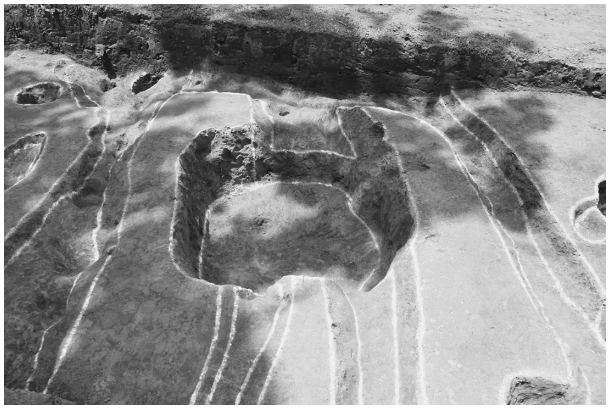
ＳＫ301 完掘状態（東から）

ＳＫ302 完掘状態　（南から）



ＳＫ305・306 半截状態　（南から）

ＳＫ308 半截状態　（北から）



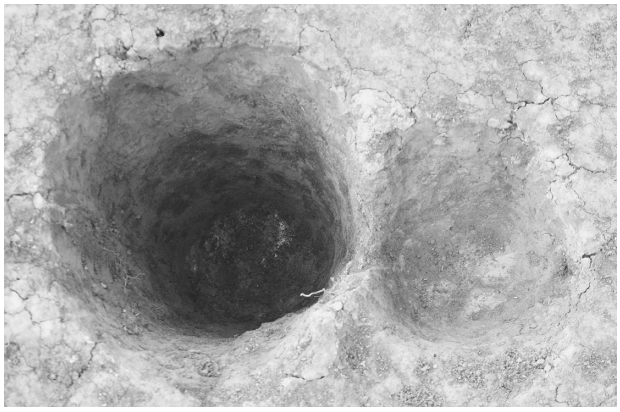
ＳＫ312 完掘状態（東から）

ＳＫ313・ＳＫ314 完掘状態（西から）

ＳＫ317 遺物出土状態（西から）

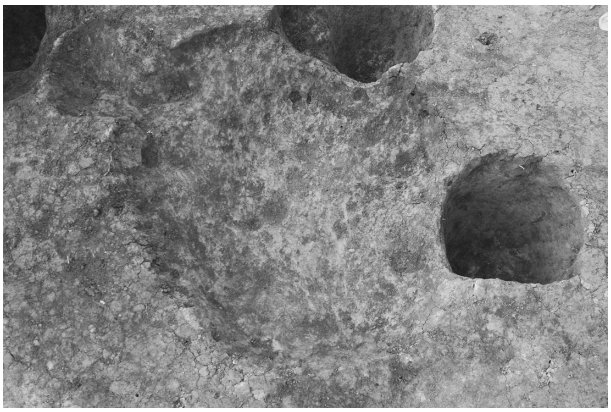
ＳＫ317 完掘状態　（北西から）

ＳＫ320 半截状態　（東から）



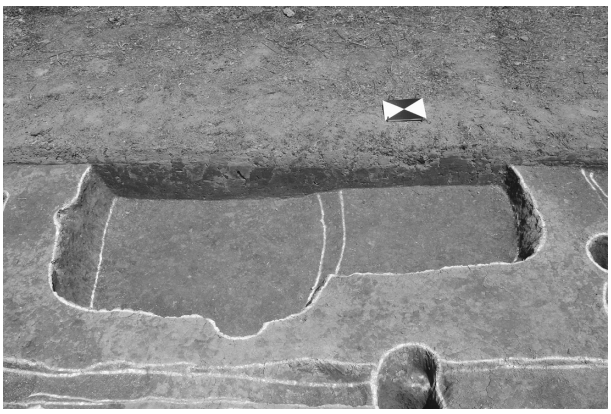
ＳＫ322・323 完掘状態　（南から）

ＳＫ325 半截状態　（北から）



ＳＫ330 完掘状態　（南から）

ＳＫ339・ＳＫ340 半截状態（北から）

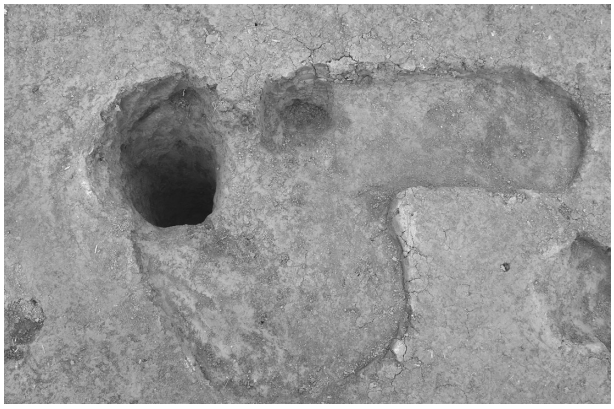


ＳＫ345・ＳＫ395 完掘状態　（西から）

ＳＫ349・ＳＤ319 半截状態（東から）

ＳＫ350 半截状態（南から）

ＳＫ360　完掘状態　（西から）


ＳＫ362・ＳＫ357・ＳＤ311 完掘状態　（東から）

ＳＫ373・ＳＫ374・ＳＫ375 完掘状態　（西から）

ＳＫ380 完掘状態　（西から）

ＳＫ381 半截状態　（西から）

ＳＫ387 完掘状態　（東から）

ＳＫ394 半截状態（東から）

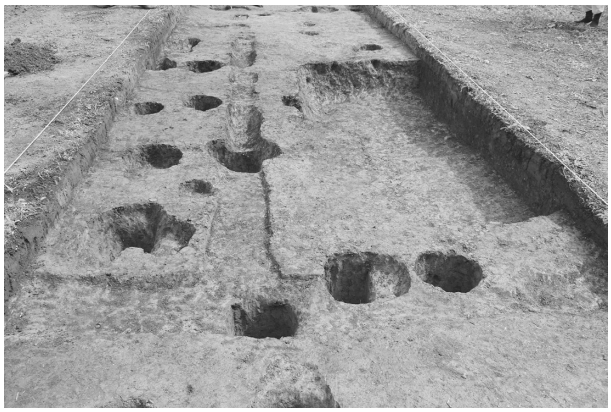
ＳＫ398 半截状態　（北から）

ＳＤ301 遺物出土状態　（東から）

ＳＤ301・ＳＤ302 半截状態　（東から）

ＳＤ304 遺物出土状態　（西から）

ＳＤ301 ～ＳＤ304 完掘状態　（西から）



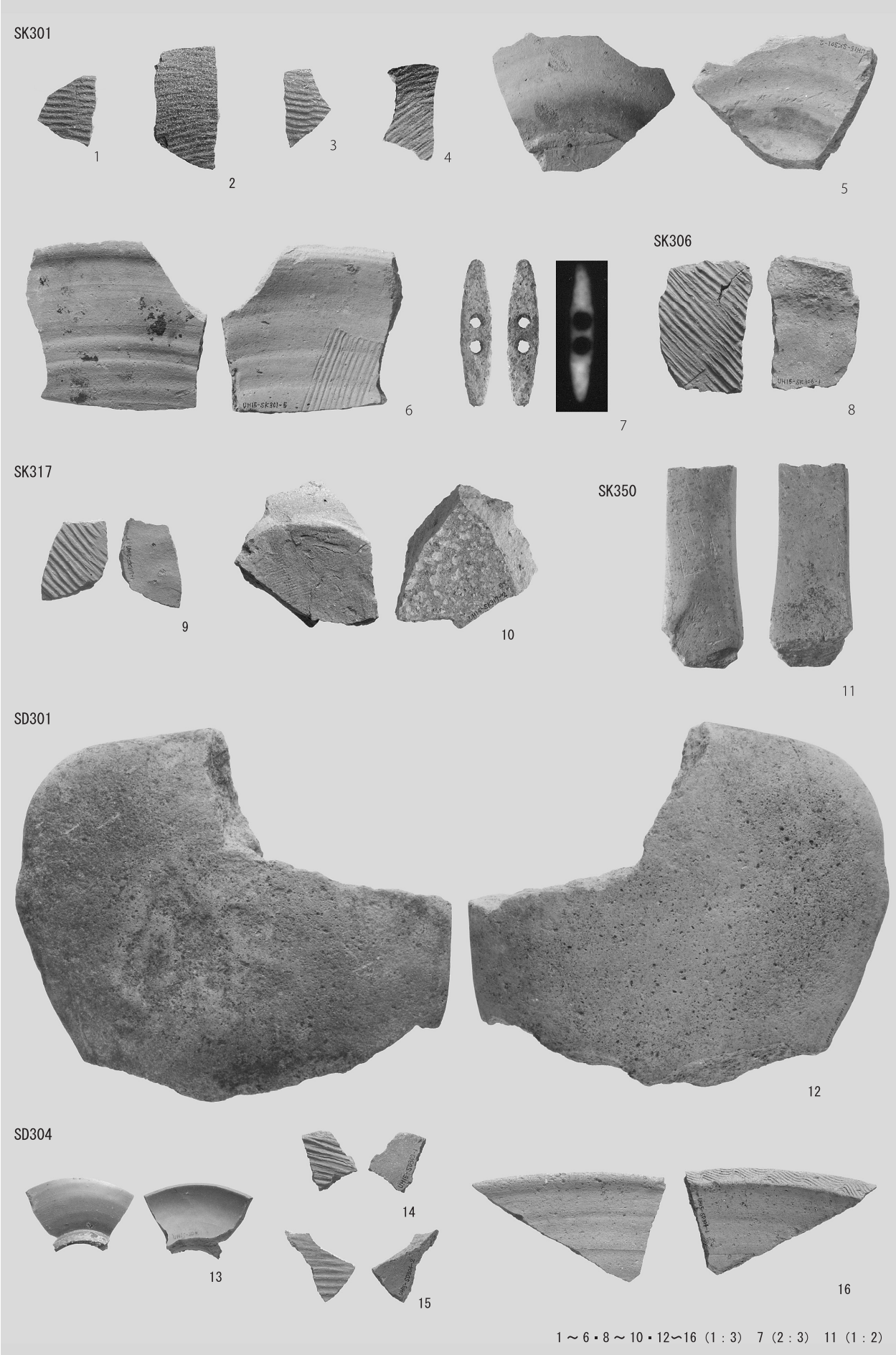
ＳＤ307 完掘状態　（南から）

ＳＫ387 完掘状態　（東から）

ＳＤ317 完掘状態（東から）

ＳＤ316 完掘状態　（南から）

ＳＤ318 完掘状態　（北から）



1～6・8～10・12～16（1：3）　7（2：3）　11（1：2）

報 告 書 抄 録

ふりがな	うらはたいせき　さん
書名	浦畑遺跡Ⅲ
副書名	墓園建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	新田康則
編集機関	長岡市教育委員会
所在地	〒940－0084　新潟県長岡市幸町２丁目１番１号　　TEL0258－32－0546
発行年月日	2016年２月29日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
浦畑遺跡	新潟県　長岡市 来迎寺　字　浦畑 901番地2	15021	448	37° 23′ 37″	138° 46′ 36″	20150601 ～ 20150611	102.9㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
浦畑遺跡	集落跡	中世	土坑・溝	珠洲焼	なし

浦畑遺跡Ⅲ

―墓園建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成28（2016）年２月29日　印刷

平成28（2016）年２月29日　発行

発　行　　新潟県長岡市教育委員会

印　刷　　株式会社サンワプロセス